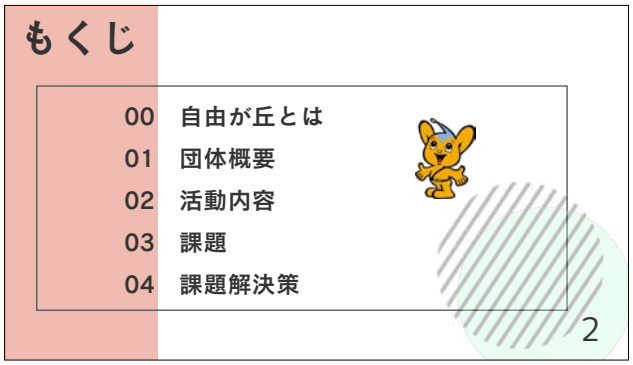
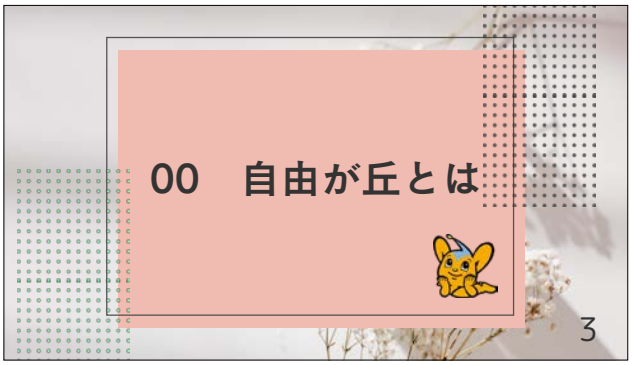
一部画像を加工・修正している箇所があります。

セザンジュ（東京都）

東京都代表、自由が丘の案内人セザンジュです。これから活動報告を行いたいと思います。進行は会長の若林と副会長の山﨑です。よろしくお願いいたします。

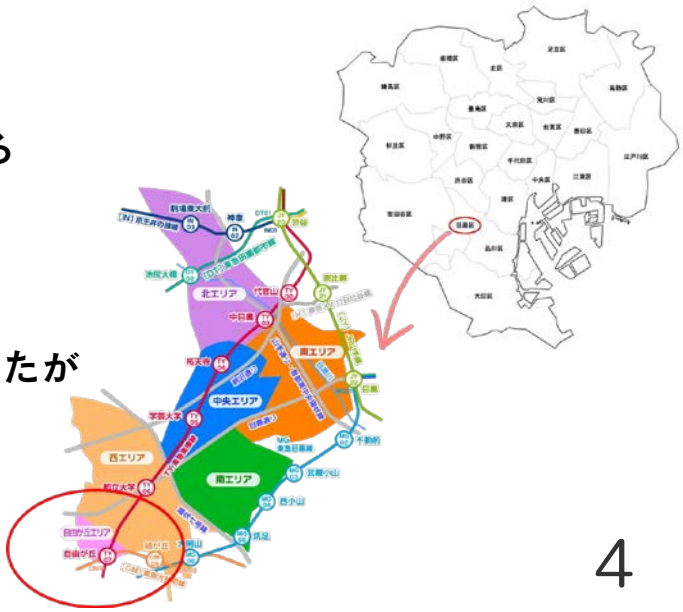




本日はこのような流れでご説明させていただきます。
まずはじめに、自由が丘についてです。

自由が丘とは…？

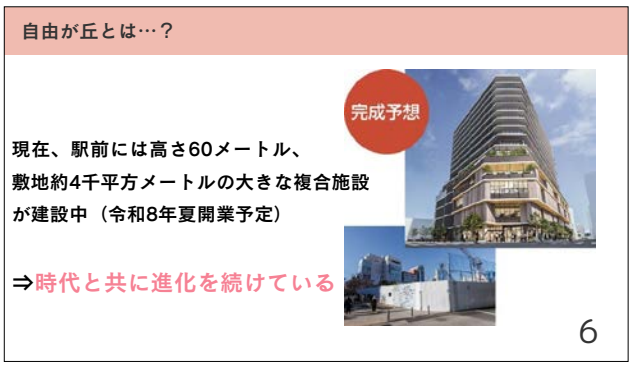
自由が丘
⇒東京都目黒区の南端に位置する



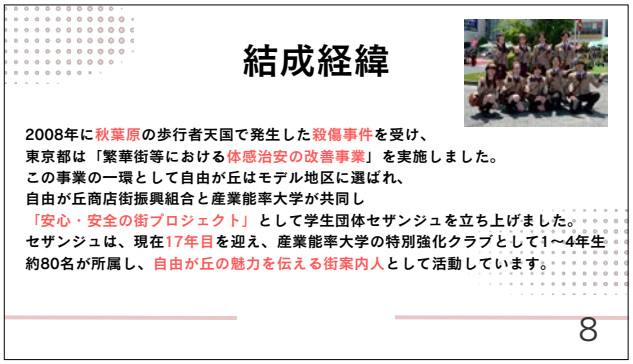
自由が丘の地名の由来
碑衾町（ひぶすままち）大字衾
（おおあざふすま）が住所であったが
当時、住んでいた文化人の中で、
この衾村（ふすまむら）を勝手に
『自由ヶ丘』と呼び住所に書いた

4

自由が丘は、東京都目黒区の南側に位置する町です。自由が丘の地名の由来として、当時は碑衾町という住所でありましたが、この時住んでいた文化人の中で、この衾村を勝手に「自由が丘」と呼び、住所に書いたことが由来となっております。



自由が丘にはこのようなスポットやお店があります。ベネチアの風景を模した施設であったり、日本で初めてモンブランを作ったお店が有名です。また現在、駅前には高さ 60m、敷地約 4000 平方メートルの大きな複合施設が建設されております。こちらのことから、自由が丘は時代とともに進化を続けている町だと言えます。



次に、団体の説明をさせていただきます。

セザンジュの結成経緯は、2008 年に秋葉原の歩行者天国内で発生した殺傷事件を受け、東京都が繁華街などにおける体感治安の改善事業を実施したことがきっかけとなっております。この事業の一環として自由が丘はモデル地区に選ばれ、自由が丘商店街振興組合と産業能率大学が共同し、「安心・安全のまちプロジェクト」として学生団体セザンジュを立ち上げました。

セザンジュは今年で 17 年を迎え、産業能率大学の特別強化クラブとして 1 年生から 4 年生まで約 80 名が所属し、自由が丘の魅力を伝えております。

表彰式

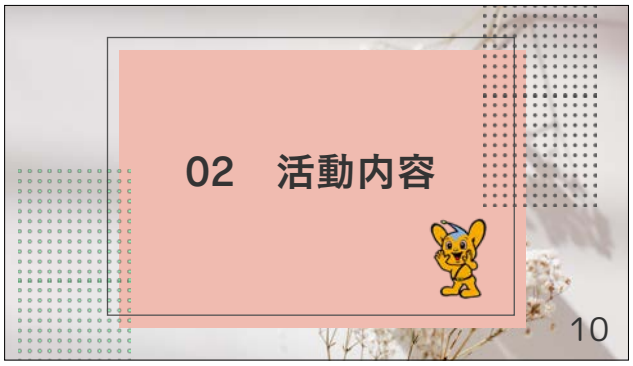
・目黒区青少年社会貢献表彰
・目黒区長感謝状
・目黒消防署一日消防署長感謝状
・碑文谷警察署長感謝状
・碑文谷警察功労団体感謝状
・東京都青少年治安対策本部長賞
・碑文谷警察署長・防犯協会長連盟賞
・警視庁生活安全部長・東京都防犯協会会長連盟賞

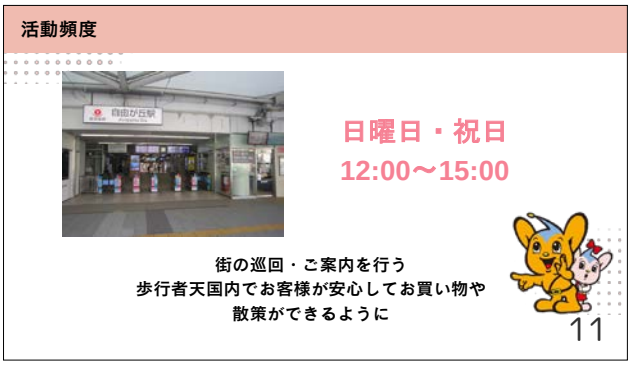
関東管区警察局長・関東防犯協会連絡協議会
会長連盟賞(防犯功労団体)

9

続いて表彰についてです。

目黒区青少年社会貢献表彰をはじめとする数多くの賞状をいただきました。今年度は、関東管区警察局長・関東防犯協会連絡協議会会長連盟賞をいただきました。



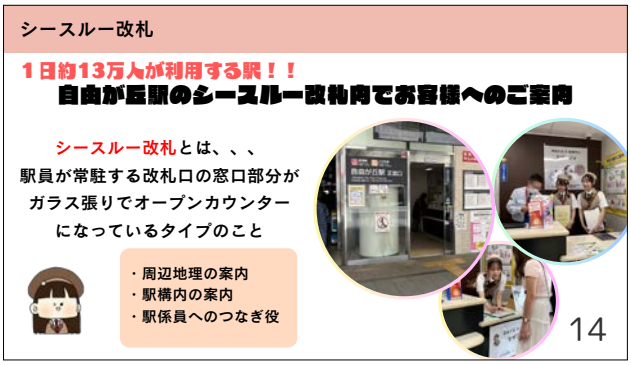


次に、セザンジュの活動内容についてです。

セザンジュは日曜日や祝日の 12 時から 15 時というお昼頃に活動しております。街の巡回やご案内を行い、歩行者天国内でお客様が安心してお買い物や散策ができるように活動を行っております。

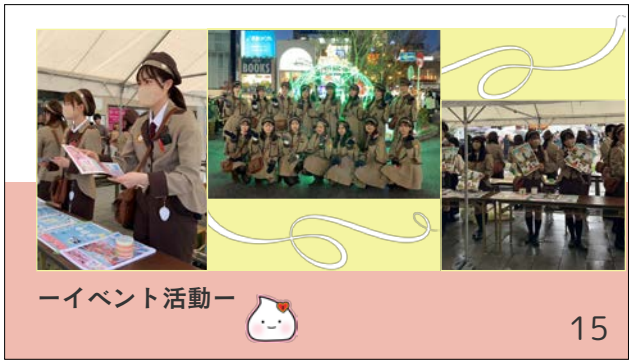
通常業務

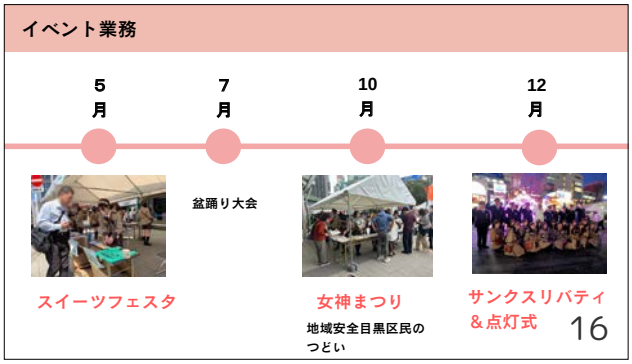
私たちの活動場所としましては、自由が丘の正面口周辺など、お客様が集中する場所を中心に活動しております。また、自由が丘の洗練された街並みに合わせ、このように茶色の制服で統一されており、防犯ブザーや無線などを身につけ、「見せる防犯」として、お客様の街の安心安全を守っております。



雨天時や夏・冬は、気候や気温に合わせて業務時間や業務の内容を変更しております。雨の日でお客様のご対応ができないときは、私服巡回に変更して店舗情報の共有やマップの書き込みなど、それぞれの時間が有意義なものになるように工夫して活動を行っております。

また、東急電鉄様から依頼を受け、自由が丘駅のシースルー改札内でお客様のご案内を行っております。シースルー改札とは、駅員が常駐する改札口の窓口部分がガラス張りでオープンカウンターになっているタイプの改札のことです。こちらの写真にある通りです。行っている内容としましては、周辺地理の案内や自由が丘駅構内の案内、また駅係員へのつなぎ役をしております。





続いて、イベント活動について説明していきます。

私たちは主に一年を通して大きく三つの活動に参加しています。5 月は自由が丘のスイーツ店にちなんで行われる「スイーツフェスタ」、10 月は自由が丘駅の女神像にちなんで行われる「女神まつり」、12 月はクリスマスイベントとして「サンクスリバティ」と点灯式に参加しています。

特に 10 月に行われる女神祭りは、毎年 50 万人以上の方が来場される大きなお祭りです。私たちは駅前の本部テントに立ち、チラシ配りやイベント情報のご案内、また迷子対応などを行っています。

その他にも様々なイベントに参加しております。

はじめに防犯イベントについてです。碑文谷警察署と協力して様々な防犯イベントに参加しています。具体的には、痴漢・盗撮・振り込め詐欺防止などを駅前で呼びかけるとともに、駅前にいる方々にチラシや防犯グッズの配布を行っております。お子様からご年配の方まで顔を合わせ、防犯意識を高めていただく貴重な機会です。

防犯イベント

振り込め詐欺防止、東京治安
対策課と警察署の合同イベント

18

その他にも、ものまね芸人のコロッケさんが一日警察署長として就任した詐欺防止のイベントや、環境美化活動、またショッピングモール内でお子様向けの防犯イベントを行うなど、さまざまな活動をしています。

地域安全目黒区民のつどい（全国地域安全運動）

01 ゲスト対談台本の作成

02 チラシ、お土産デザイン

03 着ぐるみの補助

04 舞台発表

05 来場者受付

06 駐車場誘導、ホール内誘導

19

続いて、「地域安全目黒区民のつどい」についてです。

こちらのイベントは、全国地域安全運動の一環として目黒区で年に２回行われる安全運動の啓発イベントです。私たちは企画段階からこのイベントに携わらせていただきました。具体的には、ゲストとして登壇された原辰徳さんや徳光和夫さんのゲスト対談台本の作成をはじめ、来場者の

方々にお配りするチラシやお土産デザインを担当しました。また､対談の中ではセザンジュがズームインされました。

今回、お土産デザインはこのようなものを作成しました。カラフルでポップな配色とし、誰もが手に取りやすいデザインとしました。

その他にも、着ぐるみの補助、舞台発表、来場者の受付、駐車場の誘導やホール内誘導など、さまざまなところでお手伝いをさせていただきました。

部署説明

人材開発部

open・close店舗の調査
勉強会、研修の運営

企画開発部

合宿やレクなどの企画
新入生歓迎会の企画、運営

広報部

店舗情報の発信
オフィシャルブログ、
ロコニュースの更新

20

続いて、私たちの部署の説明です。部署は大きく三つに分かれて活動しています。

はじめに人材開発部です。自由が丘のオープン・クローズ店舗の調査を行い、LINE などを通じて学生に共有しています。また、イベント前には勉強会や研修の企画運営を行っております。

続いて企画開発部です。合宿やレクリエーション、新入生歓迎会の企画などを行い、セザンジュのメンバー同士が仲良くなるきっかけづくりを行っています。

最後に広報部です。インスタグラムやブログなどSNS を中心に、自由が丘のお店について情報発信をしています。これにより、街の魅力を伝える活動をしています。

その他にも様々な取り組みを行っています。

例えば、手話講習、ダイバーシティアテンダント検定の実施、上級救命講習の実施を行っています。その他にも、イベント後には改善提案を行うことや、まち探索をして定期的に情報収集をしています。また、ご案内時に活用するマップについて、デザインや工夫した方が良い点などをグループワークで話し合い、意見出しを行い、実際の地図に落とし込んでいます。

ここからは、手話講習とダイバーシティアテンダント検定について詳しく説明していきます。

手話講習は月に１回､講師の方をお招きして学んでいます。名前や出身地など自己紹介をはじめ、ご案内の際に使うことのできる手話について学んでいます。グループワークが中心で、実践的な学習が特徴的です。

では、実際に手話を使って自己紹介をしてみたいと思います。

（手話実演）「はじめまして。私の名前は山﨑さんごと申します。よろしくお願いいたします。」

ありがとうございます。

¥Pickup/

ダイバーシティ・アテンダント検定

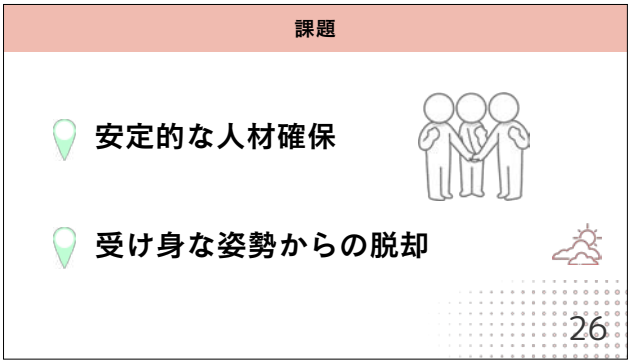
多様なお客様への理解とその対応について学ぶ。
座学で講習を開いた後に検定の取得を目指す。

24

続いて、ダイバーシティアテンダント検定についてです。

この検定は、多様なお客様への理解とその対応について学ぶ検定です。具体的には、視覚や体に障害をお持ちの方の対応について学び、実際に車椅子や白杖を使って実践的なご案内をしています。また、このほかにも LGBTQ+ やダイバーシティ＆インクルージョンについても理解を深め、年齢、性別、国籍、また障害の有無にかかわらず、多様な方々へ最適な対応方法を学ぶ活動をしております。座学で講習を開いた後に、検定の取得を目指しています。

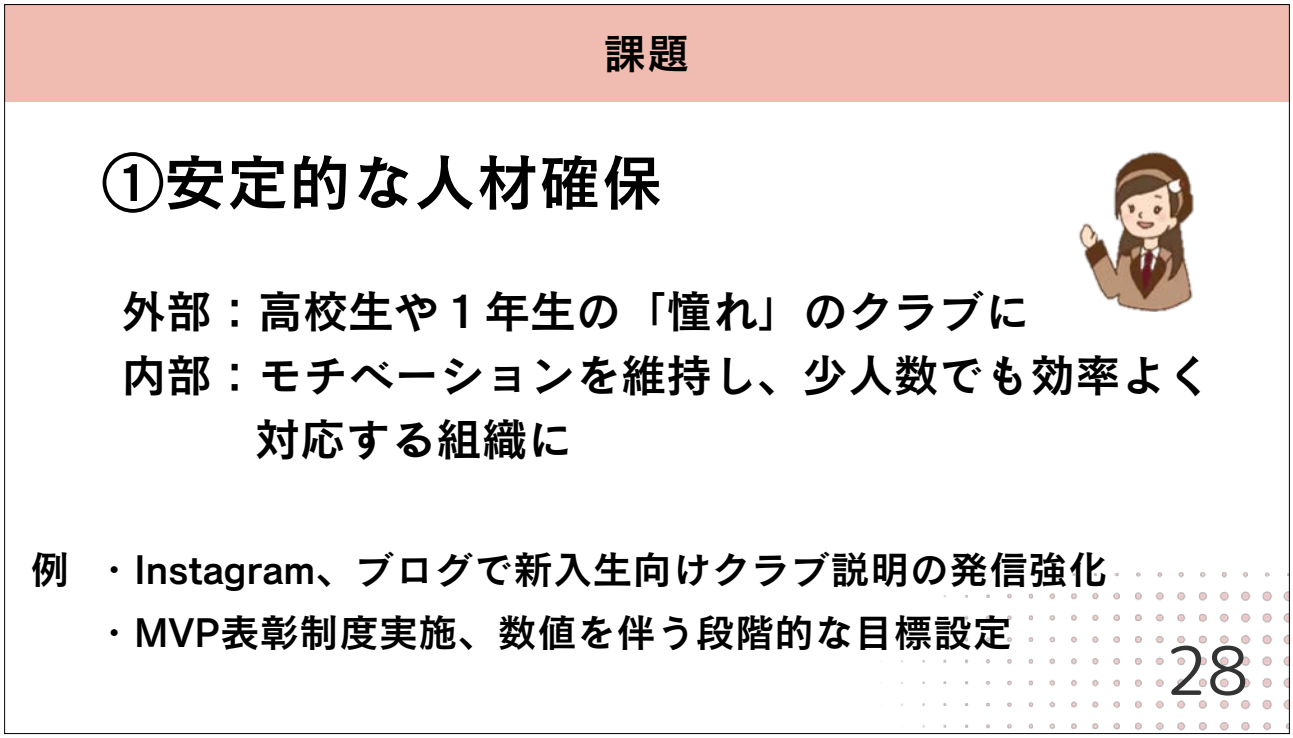
このような講習は、17 年のつながりを生かし、OG・OB の方や企業の方の協力を得て実施しています。



次に、セザンジュの課題についてです。

私たちの課題としては、大きく二つ挙げられます。一つ目は、安定的な人材確保です。二つ目は、受け身な姿勢からの脱却です。

この改善方法についてです。



一つ目に、安定的な人材確保です。私たちはコロナ禍が明け、活動が再開しましたが、年により入部者の人数に差があることや、組織内では人材配置が多岐にわたることから、モチベーションの維持が課題として挙げられます。このことから、外部に対しては高校生や新入生である１年生の憧れとなるようなクラブを目指します。また、内部としてはモチベーションを維持し、少人数でも効率よく対応する組織を目指したいと考えています。

これらの具体的な方法は三つ挙げられます。

はじめに、インスタグラムやブログなど、SNS を通じて活動内容の発信を強化することです。

二つ目に、MVP の表彰制度を設けることです。これについては、アンケートなどで声を収集し、業務態度の優れていた人を選出し、表彰を行いたいと考えています。

三つ目は、目標設定の改善です。最終的に達成したい全体目標から逆算し、具体的に私たちに必要なスキルや行動を明確にしたいと考えています。そして、「10 名の方に声をかける」「15 件ご案内する」といったように、数値を伴う段階的な目標設定を行っていきたいと考えています。

課題

②受け身な姿勢からの脱却

個人：主体的に行動する意識変革
組織：能動的な活動姿勢への転換

例）・会議や面談の場で、積極的に提案を行う
・イベント時に主体的なブースを構え、
活動発信・ブランド確立に繋げる

29

二つ目に、受け身な姿勢からの脱却についてです。

現在、私たちは業務参加について、碑文谷警察署や地域団体の方々からのお声がけに受け身で対応している状況です。また、組織としてイベントなどで企画立案する体制が弱く、主体性が不足しています。このことから、地域の方々とのつながりや認知度が十分とは言えません。

そのため、私たちは、個人としては主体的に行動する意識改革、組織としては能動的な活動姿勢への転換を考えています。

具体的な方法は二つあります。

はじめに、一人一人が会議や面談の場で積極的に提案を行うことです。

二つ目に、イベント時にはセザンジュ主体のブースを設け、活動発信や街の魅力の発信を行うことです。

これにより、セザンジュというブランドを自由が丘の街で確立させ、地域の認知度を高めたいと考えています。

以上がセザンジュの発表になります。ご清聴ありがとうございました。

ご清聴
ありがとうございました！

質問を受け付けます！

30

■講　評

【常葉大学 木宮 敬信 先生】

発表ありがとうございました。

大変意欲的な試みで、非常に多くの参考になる点があったと思います。

特に、設立目的が「治安の改善」ではなく「体感治安の改善」である点が、非常に大きなポイントでしょう。従来の治安改善活動は、パトロールによって悪い人たちへ注意喚起を行うなど、どちらかといえば男性的な、体格の良い人たちがパトロールするというイメージがありました。しかし、体感治安の改善という点では、街の雰囲気を良くし、明るくすることで「治安の良い雰囲気作り」を目指すことが中心になります。その意味で、非常に象徴的な活動だと思います。

もちろん、これは「自由が丘」という街の特性も関係していると考えられますが、体感治安の改善につながるこのようなアプローチは、他の地域にとっても大いに参考になる点です。

また、大学のサークルというかたちで活動されている点も素晴らしいです。大学生が入れ替わる中で、若い世代が継続してこの種の活動に参加する仕組みは、社会全体にとっても大変ありがたい活動だと感じます。

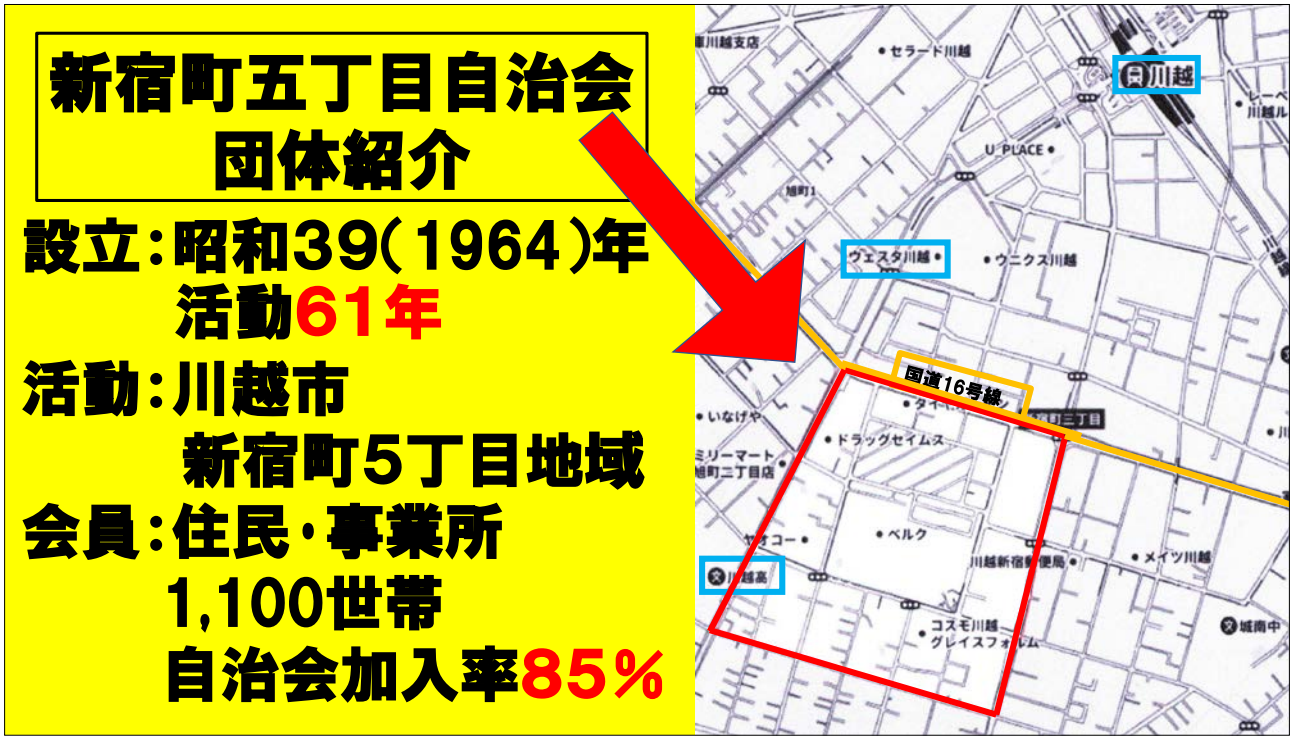
情報発信の工夫も見事です。若い世代らしくSNSを効果的に活用されていますが、それが防犯活動に偏るのではなく、「街の案内人」という名称で発信することで、間口を広く設定しています。そうした活動が、結果的に防犯への興味を引く入り口として機能している点は、大変優れた手法だと感じました。

これからも頑張ってください。以上です。

新宿町五丁目自治会（埼玉県）

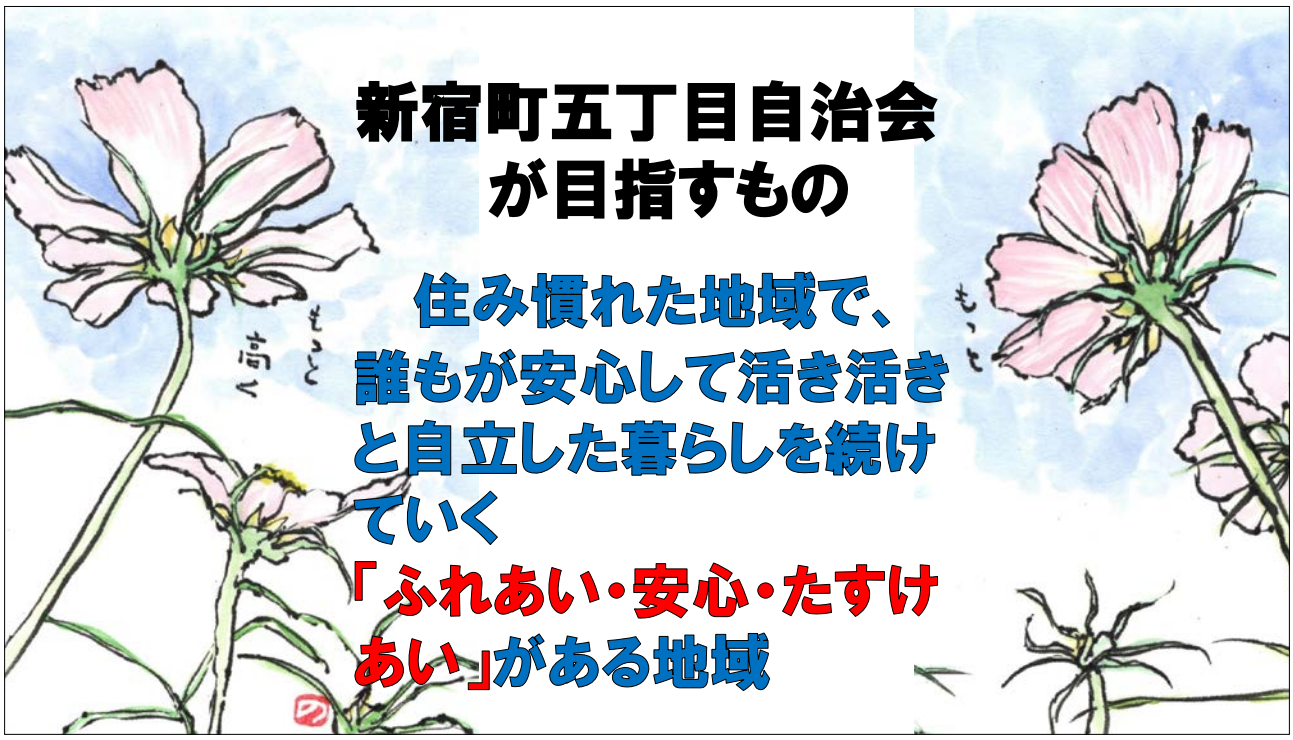
皆様こんにちは。私は埼玉県川越市新宿町五丁目の自治会会長、荒木浩子でございます。本日のパワーポイントの操作は、埼玉県警察川越警察署、生活安全課の森川係長です。

本日は防犯ボランティアフォーラムという機会をいただき感謝申し上げます。これから、私どもの地域力を生かした防犯の実践活動をお話しします。



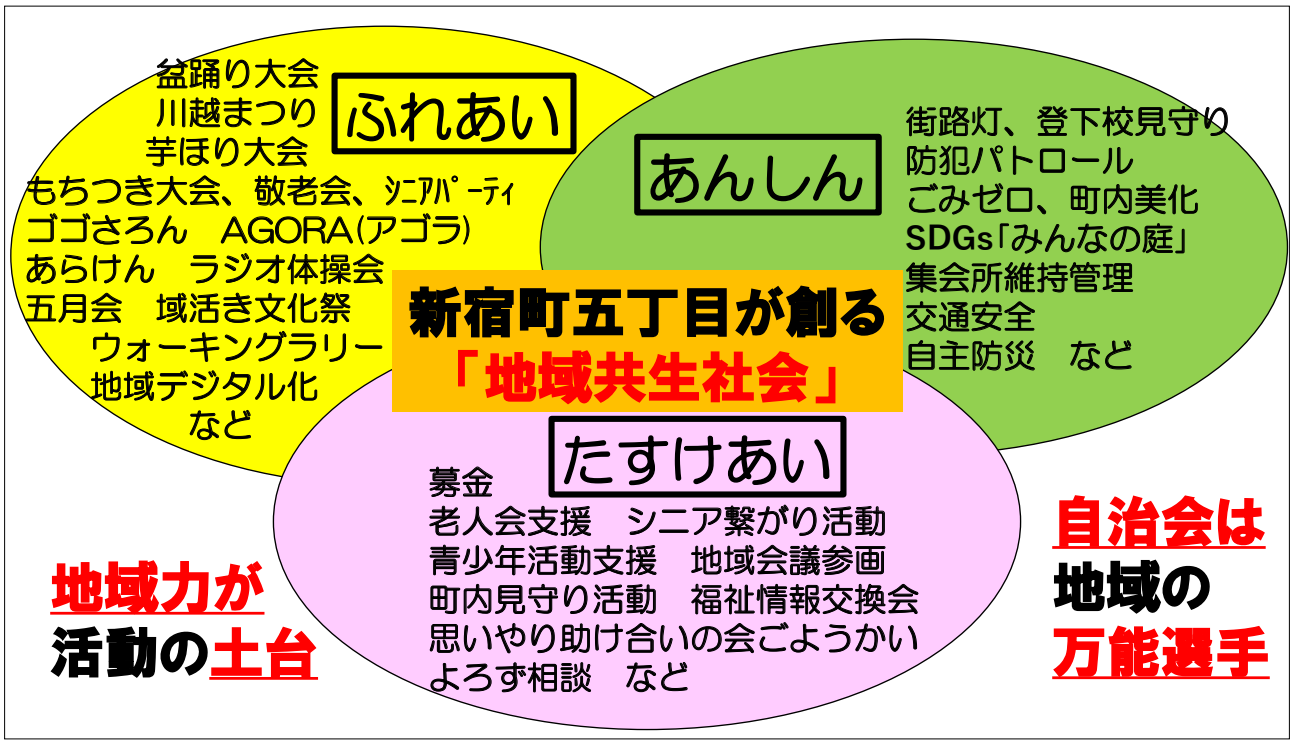
埼玉県の西部、川越市の玄関口、川越駅西口の文化施設ウェスタ川越から南東へ広がる高台エリアが新宿町です。新宿町五丁目は、国道 16 号線から市立川越高等学校付近にあります。ご覧のように、整然と区画された街路に住宅地、商業地、事業所がちりばめられた、アクセスが良く住みやすいところです。

町ができておよそ 60 年前から、自治会は住民の歴史とともにあります。現在も自治会加入率 85% と、街中の自治会にしては非常に高いご支持をいただいています。



新宿町五丁目自治会が目指すのは、住み慣れた地域で、誰もが安心して生き生きと自立した暮らしを続けていく、ふれあい・安心・助け合いがある地域です。

3年間のコロナ禍はマイナスの面もありましたが、危機的な状況で大切なもの、必要なことを明確に示したとも思います。新宿町五丁目自治会は、緊急事態宣言下以外は知恵と工夫で活動を止めず、むしろ新しい事業を立ち上げる原動力にしました。百年に一度の困難を乗り越えた先の希望が輝かしいものになるよう、心に希望と勇気を持って、みんなで活動を続けています。



こちらが新宿町五丁目が手掛けている活動です。

「ふれあい」は交流です。つながりを大切に、様々な世代が関心を持ち、安心して参加できる

ようにしています。

「安心」は防犯、交通安全、環境、防災活動です。関連団体や町内関係者の協力を仰ぎながら、諸活動を進めています。

「助け合い」は募金協力、つながりづくりから始める助け合いです。誠実に思いやりの心を持って努めます。

このように、自治会は地域の万能選手、よく言うとオールラウンダーであり、地域力が活動の土台、プラットフォームになり、まさに地域共生社会を作っています。

そんな私どもの町内でも、ここ数年の心配な出来事に悩まされております。特に新型コロナウイルスの発生以降、家にこもりがちな住民を狙った新しい犯罪の情報連絡や相談が増えました。高齢化は私どもの地域でも進んでいますが、犯罪被害者はシニアばかりとは限りません。

そこで、私たちが日々培っていた地域力を生かし、新宿町五丁目の住民や事業者を対象に、シニアへの交通安全や犯罪被害防止の広報啓発活動、全世代対象の見守り活動、町内全域の人材交流や環境浄化を目的に、川越警察署や川越防犯協会、川越市役所などにご協力をいただき、「防犯力＝地域力！ 全世代参加で域活き あら５！」と題して活動を推進しています。

主な防犯活動は七つあります。

一つ目は、シニア宅への訪問です。これは 2016 年（平成 28 年）から続けています。町内の老人クラブ「新五寿会」の世話役と一緒に、7 月と 12 月の年 2 回訪問し、シニアへ直接伝えたいことをチラシや啓発品を添えてお届けしています。開始当初から川越警察署や川越防犯協会に全面協力いただき、チラシや啓発品の提供、警察官の派遣など、ありがたく思っております。

二つ目は、徒歩や自転車のパトロールです。自治会が行う毎週の「昼歩き」、夏休み・冬休みの夜回りのほか、子ども会育成会（小学生と保護者の団体）の保護者による毎週夕方のパトロールに加え、春夏冬休みには毎日の自転車パトロールを行っていただいております。

三つ目は、青色防犯パトロールです。毎月の午後に、新宿町は一丁目から六丁目まであるのですが、その六町が交代で新宿町全域を巡回しております。

四つ目は、通学路の子ども保護・見守り活動です。子ども会育成会と協力して進めています。自治会役員のほか、町内の防犯ボランティア複数人が交代で務めております。朝の見守りは育成会と一緒に、午後のお迎えは防犯ボランティアが分担して実施しています。

五つ目は、防犯キャンペーンです。毎年 3 月に行う健康行事「町内ウォーキングラリー」というイベントの中で必ず呼びかけをしています。また、毎年交代する自治会の班長様（区域の世話役さん）向けに防犯講習を取り入れています。新宿町の自治会役員や民生委員の集まりでは、防犯講習会を行い、地域情勢の把握と防犯意識の向上に役立てています。

六つ目は、「ながら防犯」です。私は毎朝の町内散歩にこの格好（防犯ベスト）をして、町内

の防犯パトロールとゴミ拾いを兼ねて回っております。防犯ボランティアは、毎朝の散歩や掃除に「防犯」と書かれた帽子をかぶって活動しています。私が防犯ベストを着て挨拶をしながら回っていたら、色々な方々と声を交わすようになり、意思疎通が図られています。また、いつの間にか散歩する方の中から自主的にゴミ拾いをする方々が増え、本当にありがたく思っています。

七つ目は、地元の川越市立新宿小学校 PTA に協力し、「子ども 110 番の家」活動の一環として、危険箇所の点検、情報提供や共有もしています。昨年 11 月には、小学校を会場として行う地域のお祭り「地域ふれあい祭り」の会場で、来場者へ危険箇所の図上調査を行いました。

このように、年間にすると 535 回、延べ 1400 人の活動を行っております。

これら多岐にわたる防犯活動は、長年にわたる地域における自治活動、交流活動の積み上げの成果です。町内で防犯活動や人材交流を広く普及させるため、回覧板や掲示物、広報誌の発行、SNS の配信、多彩なイベント・講習会の開催により、自治会加入世帯を確保しています。

回覧物には、特にお知らせしたい情報のまとめや、日々の自治会活動報告を載せた「新宿町五丁目だより」を毎月欠かさず 16 年間、そして半年に 1 回の写真付き広報誌「あら 5」の発行を 12 年間続けております。今画面でご覧いただいているのは、現在発行しているものの最新号、第 25 号になります。

また、賃貸物件を管理する不動産会社との協定や、大家さんや管理組合への呼びかけを行い、町内に新規住民が転入した際に自治会への加入を促しております。

こうした活動により、自治会加入は 1100 世帯、全世帯の 85% にのぼり、世帯訪問などの防犯活動や講習会などのイベントを通じ、多くの住民に犯罪被害防止啓発活動の普及や、人材交流の機会の枠組みが築かれています。

そして、活動は無理のない、過度な負担をなくす工夫もしております。

新宿町五丁目は自治会のほか、自治会活動に賛同する老人クラブ、子ども会育成会、防犯ボランティア、中学生、川越市少年補導員が共に活動しています。これらの活動人員を、シニアのつながり活動、通学路見守り（朝・夕）、夜の見回り、町内パトロールなどの各活動に分担して割り当て、各個人の負担を軽減しながら定期的・継続的な活動に取り組んでいます。

さらに、後継者、若い人の参加促進、活動メンバーを確保するための工夫をしています。自治会では、自主的に子どもから大学生を起用した防犯活動について情報を集めています。特に 2015 年（平成 27 年）からは、「地域で輝く中学生」による地域活動への参加を促す活動を続けています。

昨年、地元の川越市立城南中学校が、校内に「ボランティア部」という部活動を作り、昨年・今年と延べ 31 人の中学生が防犯パトロールに参加してくださいました。中学生は夏休み市民ラジオ体操会、納涼盆踊り大会、ふれあい敬老会、ゴミゼロ運動などのイベントに手伝いとして参加し、町内居住者との交流も図っています。

さらに、60 歳から 74 歳の地域参加を促すイベント「シニアパーティー」や世代向けの趣味サークルの誘致、自治会内での全世代向けの助け合い活動「思いやり助け合いの会ごようかい」を備え、参加しやすい環境を整えています。このように、自治会の地域力を生かして人材を集め、防犯力の向上にもつなげております。

あら5流　防犯活動の工夫

その1
自治会加入率85％を維持し、防犯活動に取り組む工夫

その2
幅広い世帯へ防犯啓発活動を波及する工夫

その3
中学生を地域貢献活動へ導く工夫

新宿町五丁目自治会では、防犯活動を持続的に行うにあたり、三つの工夫をしています。

一つ目は、自治会加入率 85% を維持している具体的な取り組みです。先ほど申し上げた有償ボランティア団体「思いやり助け合いの会ごようかい」を備えております。手助けを必要とする自治会員はどなたでも利用することができ、これにより、通常の自治会活動に参加できない方も引き続き自治会員であり続けている秘密になっております。その「ごようかい」から近所で気になる情報を得て、防犯活動に役立てるという流れにもつながっております。

二つ目は、幅広い世帯へ防犯啓発活動を波及させる工夫です。近所で気になる情報というのは毎日のようにもたらされます。その情報を自治会、民生委員、老人クラブなどの関係者で話し合う情報交換会を月例で開き、町内見守り活動に生かしています。また、犯罪弱者でありますシニアへ年２回、「シニアのつながり活動」としてお知らせしたいことを、自治会、老人クラブ、警察官で個別訪問を続けております。

三つ目は、中学生を地域貢献活動へ導く工夫です。「地域で輝く中学生」と名付けた活動は、地域の若い担い手である中学生が、地元では誤解され、また中学生の居場所が地域にないことから取り組み始めました。中学生を地域活動にもっと参加してもらおうという取り組みです。イベントのお手伝いや環境美化、防犯パトロールに参加することで、達成感や自己有用感を育み、地域の一員として認め、伸ばすことを目的にしています。活動を始めてもう 10 年を過ぎ、今では中学校との連携ができました。地域で中学生に対してボランティア証明書を発行し、キャリア教育の履歴にもつながり、以前は実は不良でとても有名だった学校が、今では埼玉県で五指に入るような優良校になりました。

まとめ

防犯力＝地域力は

①日々の多岐にわたる活動を大勢で支える。
②ふれあい・あんしん・たすけあいの活動が相互に作用しあい、大きな効果を生み出す。
③全世代で持続可能な活動。

まとめです。

一、自治会はどこにでもある地域で身近な存在です。日々の活動は多岐にわたります。また、大勢が支えることで防犯力を生みます。

二、自治会が担う「ふれあい・安心・助け合い」の活動が相互に作用し合い、大きな効果を生み出します。

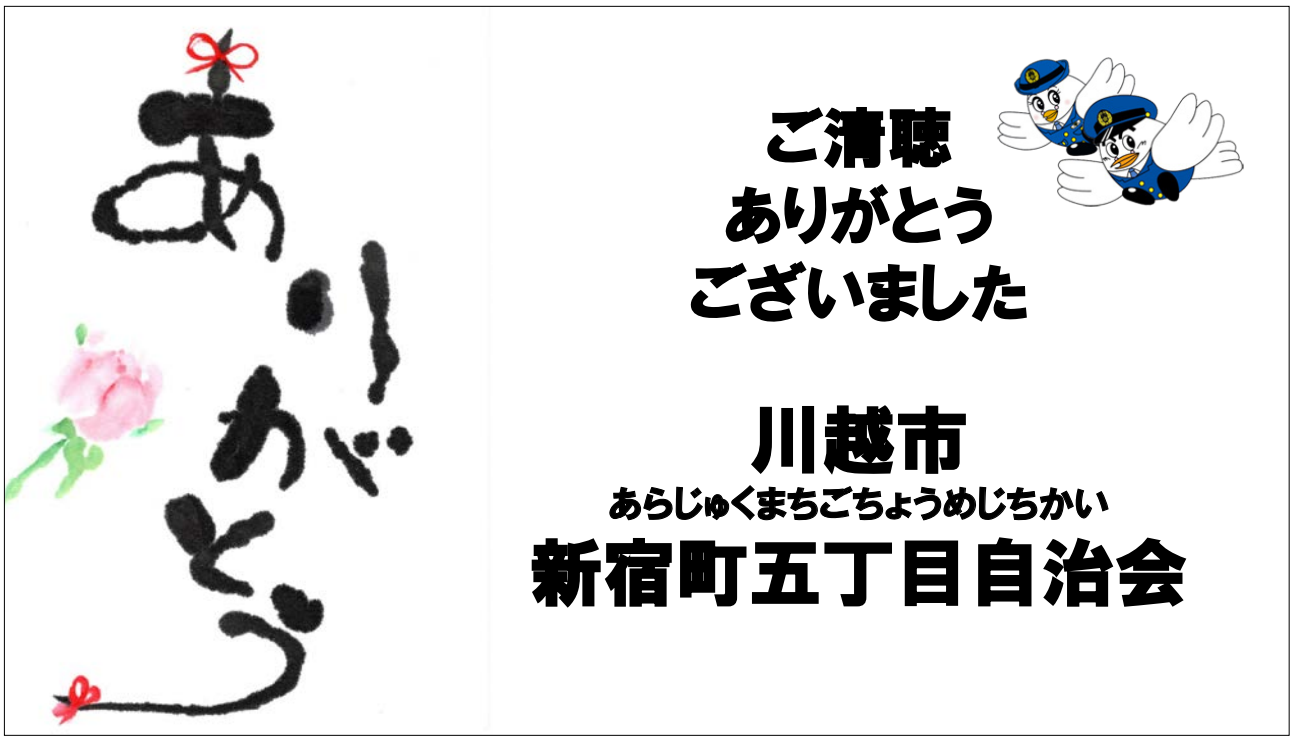
その一例が、助け合い活動の設立キャンペーンとして行った、防犯にも役立つ「カメラ付き無線ドアホン」の設置キャンペーンです。簡単な取り付け作業を町内のボランティアが行うことで格安で設置できると大評判で、本体 10,409 円、作業代 800 円、合わせて 11,209 円で付けられるということで大好評でした。累計で 85 台設置し、その後の電池交換などで引き続き関わりもでき、顔の見えるお付き合いにつながり、予想以上の効果を見ました。

三、活動できるすべての世代を巻き込み、役割を分散することで、将来にわたり持続可能になっています。

これからも生き生きとした地域であり続けるよう、みんなで防犯活動を進めていきます。「防犯力＝地域力！ 全世代参加で生き生き あら５」の話は以上です。

機会があれば新宿町五丁目へ遊びに来てください。お待ちしています。新宿町五丁目のYouTubeチャンネル登録、よろしくお願いします。X（旧Twitter）、Facebook、Instagram、LINEも開設し、情報発信をしています。「新宿町五丁目自治会」で検索していただければ、お友達登録もできます。ぜひご覧いただければと思います。

ご清聴どうもありがとうございました。



■講　評

【常葉大学 木宮 敬信 先生】

発表ありがとうございました。

キーワードとして「防犯力＝地域力」とありましたが、これは誰もが理解していながら、実践が非常に難しい点でもあります。多くの地域では「防犯力のためには地域の力が必要だが、その地域力が低下している」というのが今どきの悩みです。そのような中で、今回の発表のように、自治会の活動そのものを活性化させることが結果として防犯力の向上につながるというお話は、多くの自治会にとって大変参考になると思います。

特に、加入率の高さには驚きました。85% とご紹介いただきましたが、全国平均では既に 70% を切り、都市部ではさらに低くなる傾向にあります。毎年 1 ポイントずつ下がっている現状を考えると、10 年、20 年後には半分程度になるという予測もある中で、85% を維持する工夫には感心します。

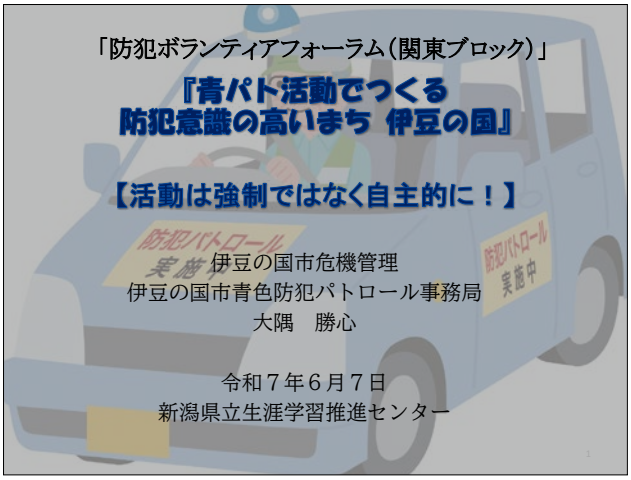
様々なイベントや活動をされていますが、これも難しい部分で、活動を一生懸命やればやるほど逆に忙しくなって人が離れていく、ということもあり得ます。しかし、多くの活動をこなしつつ、大勢が主体的に参加し満足度を上げていくという工夫は、本日のお話だけでは全てをうかがい知ることはできませんが、非常に関心を持ちました。

防犯の面では、学校との連携の中で「子ども 110 番の家」のマップをご紹介いただきましたが、これも大変良い取り組みだと感じました。私が様々な学校を訪問する中でも、この「子ども 110 番の家」をうまく活用できていないケースが目立ちます。110 番の家そのものは数多くあっても、学校側が十分に把握していなかったり、子どもたちに聞いても「何か怖いことがあっても、知らない人の家に助けを求めるのはハードルが高い」という声が聞かれます。日頃から 110 番の家の方と子どもたちがつながり、お互いの顔が見える関係性があって初めて機能するものですが、多くの地域ではそこがつながっていません。それを自治会のような存在が間に入り、学校と地域をつなげてくれるというのは、非常に良い取り組みだと思います。

学校の先生方は地域の人間ではないため、地域の人やお店をよく知らないというのが実情です。そうした点で自治会の皆様がお手伝いくださることは、他の多くの学校にも紹介していけると良いと感じました。

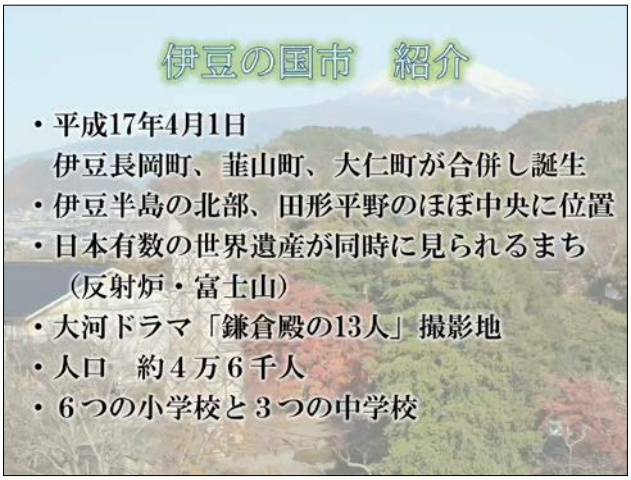
SNS 等で様々な発信もされているということですので、私も拝見しながら勉強させていただきたいと思います。ありがとうございました。

伊豆の国市青色防犯パトロール隊 TEAM-ON（静岡県）



皆様こんにちは。静岡県伊豆の国市から参りました、危機管理課の大隅と申します。本日はよろしくお願いいたします。

私は伊豆の国市青色防犯パトロール隊の事務局をしており、本日はそれについてお話をさせていただきます。前半では、伊豆の国市青色防犯パトロール隊の概要や沿革、活動内容など、全体的な説明をさせていただきます。続いて後半は、伊豆の国市青色防犯パトロール隊として実際に活動していただいている団体 TEAM-ON について、私の方からお話をしたいと思います。



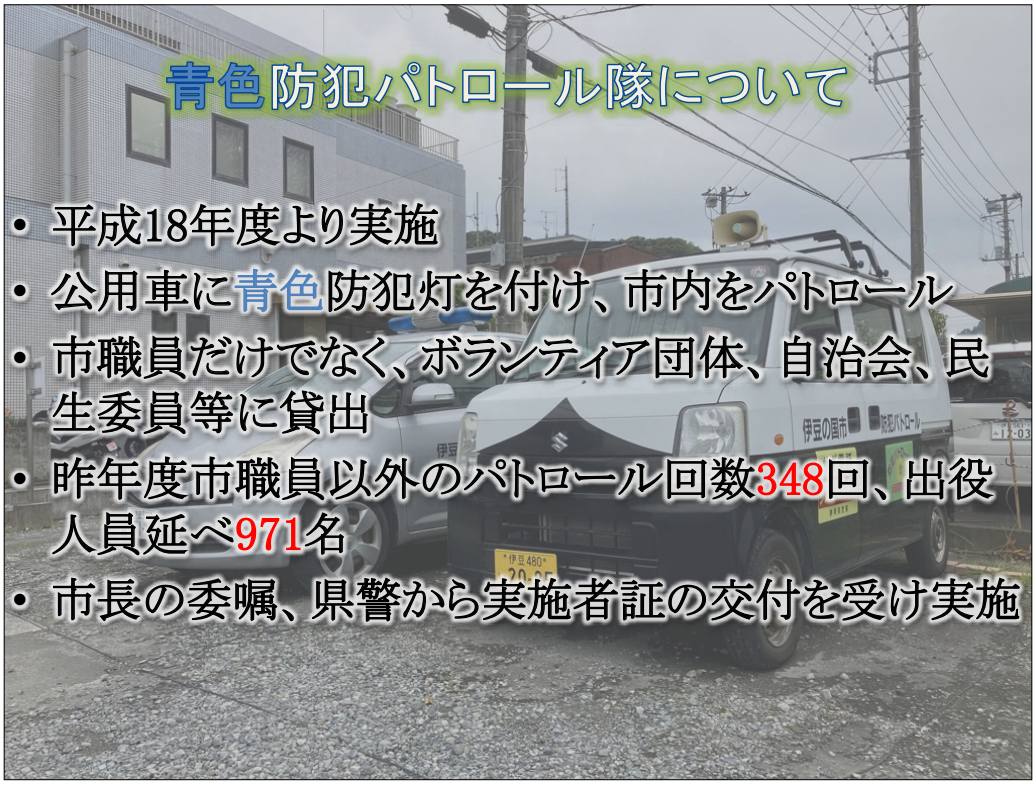
本題に入る前に、伊豆の国市をご存知ない方もいらっしゃると思いますので、簡単に伊豆の国市について紹介をさせていただきます。

伊豆の国市は、平成 17 年 4 月 1 日に伊豆長岡町、韮山町、大仁町が合併し誕生しました。伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置しており、平野部には狩野川が流れ、狩野川に沿うように国道と伊豆箱根鉄道駿豆線が走っています。

世界遺産の韮山反射炉や、源頼朝が島流しにされた蛭が小島など歴史的資源も豊富で、3 年前には大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の撮影地にもなっています。韮山反射炉の展望台からは富士山も見ることができ、日本有数の世界遺産が二つ同時に見られる街です。

人口はおよそ４万６千人で、市内には６つの小学校と３つの中学校があります。しかしながら、人口減少と高齢化の波も押し寄せており、高齢者の詐欺被害等が喫緊の課題となっています。

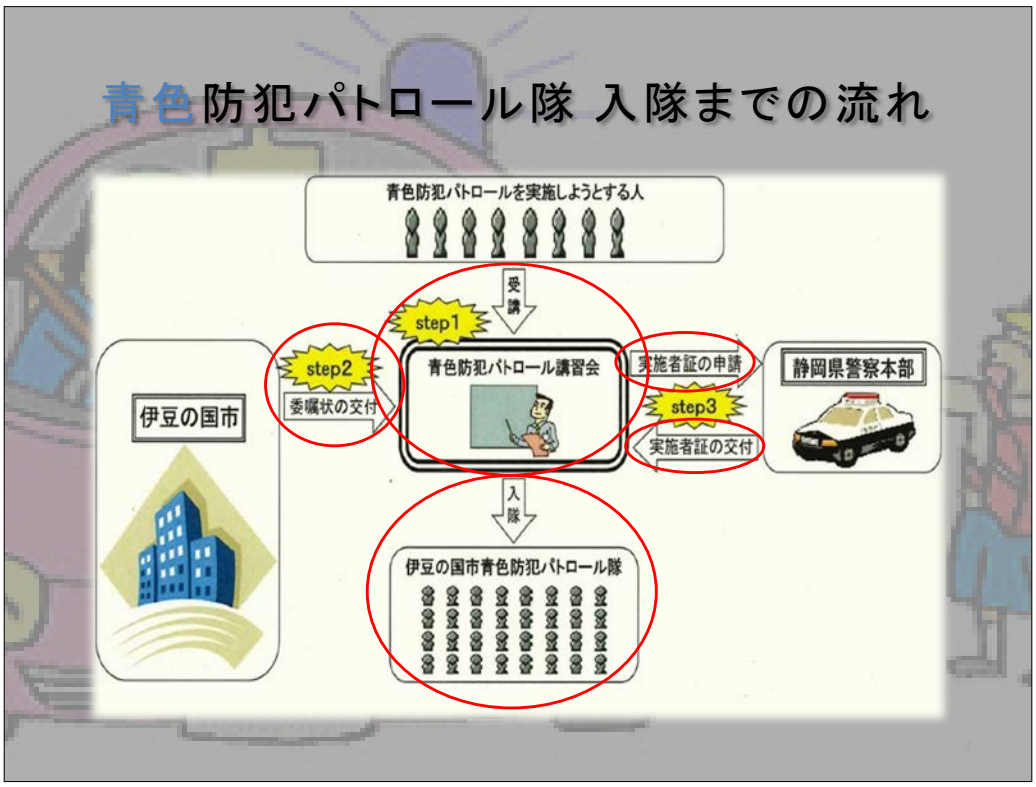
伊豆の国市は伊豆中央警察署の管轄内になります。伊豆中央警察署は、伊豆の国市と隣接する伊豆市を管轄としており、日頃から防犯や交通安全などさまざまな面でご協力いただいております。今回の発表につきましても、このような協力関係がありまして、当市の青色防犯パトロール隊にお声がけをいただきました。



それでは実際に、市の青色防犯パトロール隊の説明に移らせていただきます。

伊豆の国市では、平成 18 年度より青色防犯パトロール事業を実施しています。この事業は、市の公用車に青色回転灯を装着し、市内をパトロールするというものです。通常、一般の自動車に回転灯を装備することは法令で禁止されています。しかし、平成 16 年 12 月から、自主防犯パトロールを適正に行うことができると警察が認定した団体については、自動車へ青色回転灯を装備できるようになりました。

そこで伊豆の国市では、市役所職員だけでなく、市民有志の皆様と共に活動できるよう伊豆の国市青色防犯パトロール隊を立ち上げ、警察の認定を受け、パトロール事業を実施しています。昨年度につきましては、市職員以外のパトロール回数が 348 回、出席人員が延べ 971 名と、多くの方にパトロールをしていただいています。



次に、伊豆の国市青色防犯パトロール隊員となるまでの流れを簡単に説明します。

まず初めに講習会を受講していただく必要があります。その後、伊豆の国市長より青色防犯パトロール隊員として委嘱を受けます。そして、市から警察へパトロール実施者証の交付を申請します。最後に、県警から実施者証が交付されます。このように、市長からの委嘱と県警からの実施者証の交付を受けて、青色防犯パトロールを実施することが可能になります。

また、隊員の皆様には、おおむね３年ごとに講習会を受講していただくようお願いをしております。今年度に関しましては、6月４日と昨日６月６日の２日間行われました。スクリーンに映っ

ているのは、昨年度の講習会の様子です。毎年２日間で100名以上と多くの方に受講していただいております。

令和７年４月１日現在で、455名の方に伊豆の国市青色防犯パトロール隊として入っていただいております。隊員の大半を占めているのが市民の皆様であり、自治会や民生委員として登録していただいているほか、有志のボランティア団体として青色防犯パトロールに取り組んでくださっている方も多くいらっしゃいます。

次に、実際のパトロールの実施方法、活動内容について簡単に説明をさせていただきます。

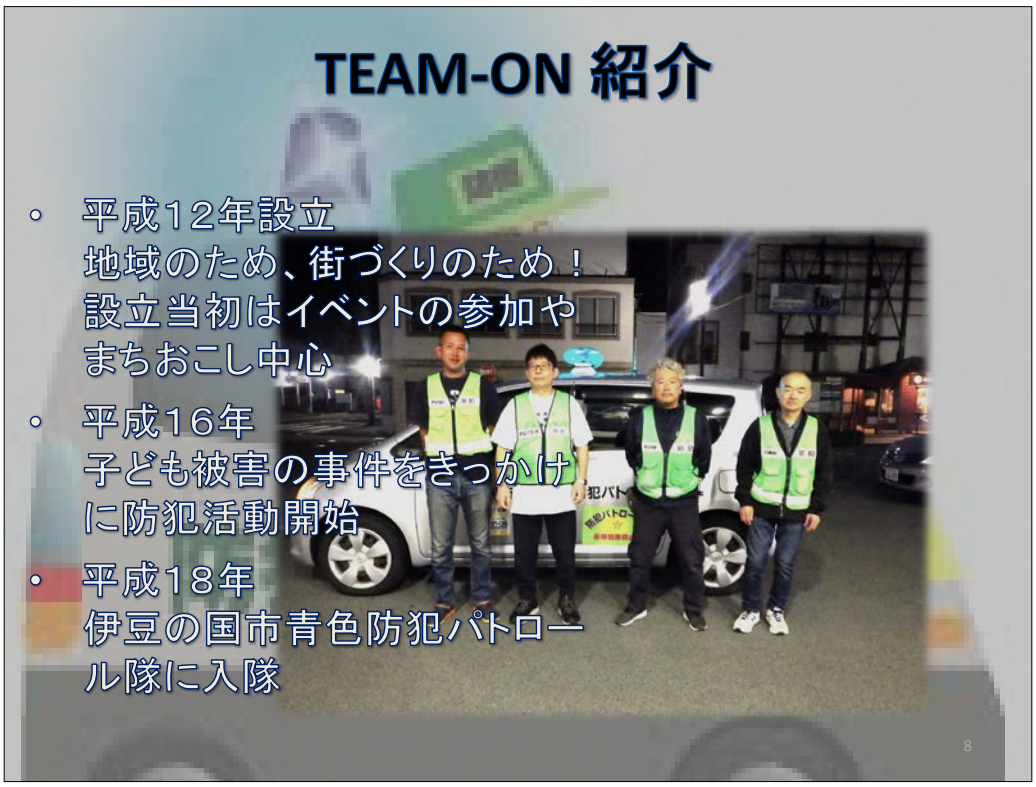
青色回転灯を装着した市の車、通称「青パト」と呼んでいますが、現在、市内に３カ所ある市役所の庁舎に計４台配備しています。隊員はパトロールを実施する３日前までに、私たち市役所の危機管理課へパトロール車両の利用申請を行います。当日は各庁舎で鍵を借り、防犯ベストを着用して乗車し、青色回転灯を点灯させてパトロールを実施します。パトロールを実施する時間帯で最も多いのは午後で、子どもたちの下校時間に合わせて見守りをしていただいています。次に多いのは、夜間に暗くなってからの防犯パトロールです。

隊員各自のパトロール活動の他にも、伊豆中央警察署主催の青色防犯パトロール出発式にも出席しています。スクリーンに映っているのは、昨年度の全国地域安全運動の前日に、隣接する伊豆市の駅で開催された出発式に参加した時の様子です。

また、隊員の皆様の中には、市の公用車に限らず、ご自分の自家用車や自治会で所有している車を青パトとして登録して活動してくださっている方もいらっしゃるなど、積極的に活動をしていただいています。

ここまで説明させていただいたように、伊豆の国市青色防犯パトロール隊では、多くの市民の皆様にご参加いただき、支えられています。今後も青色防犯パトロールの実施回数を増やして防犯の輪を広げ、安心して過ごせる街を目指していきたいと思っています。

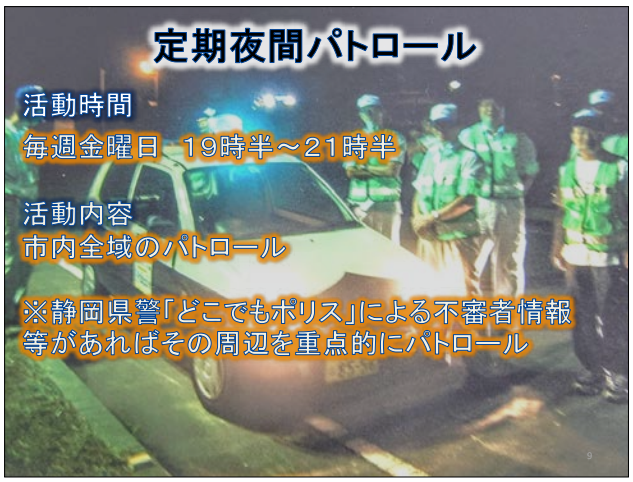
これで伊豆の国市青色防犯パトロール隊の全体的な説明を終わります。

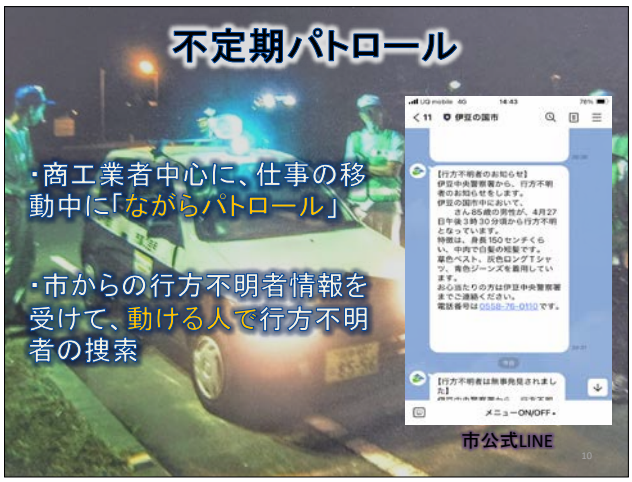


引き続きまして、青色防犯パトロール隊員として実際にご活躍されている団体 TEAM-ON について、本日、代表の中村さんがご都合つかなかったため、中村さんより伺った話を私の方からお話しさせていただきます。

TEAM-ON は平成 12 年に設立した団体です。地域のため、まちづくりのために何か貢献したいと思ったことが活動のきっかけでした。商工業者を中心に 21 名で活動を始め、最初は防犯ではなく、イベントの企画・参加、町おこしが中心の活動をしていました。

平成 16 年、子どもに被害のある事件が続いたことをきっかけとして、巡回や安全運動など防犯に関する活動を開始しました。平成 18 年、伊豆の国市の青色防犯パトロール隊が発足したと同時にパトロール隊に入隊していただき、市の公用車を使用した青パトでの防犯活動を開始しました。





現在は 13 人が団体に所属し、毎週金曜日の 19 時半から 21 時半の夜間をメインに、定期的に防犯パトロール活動を行っていただいています。

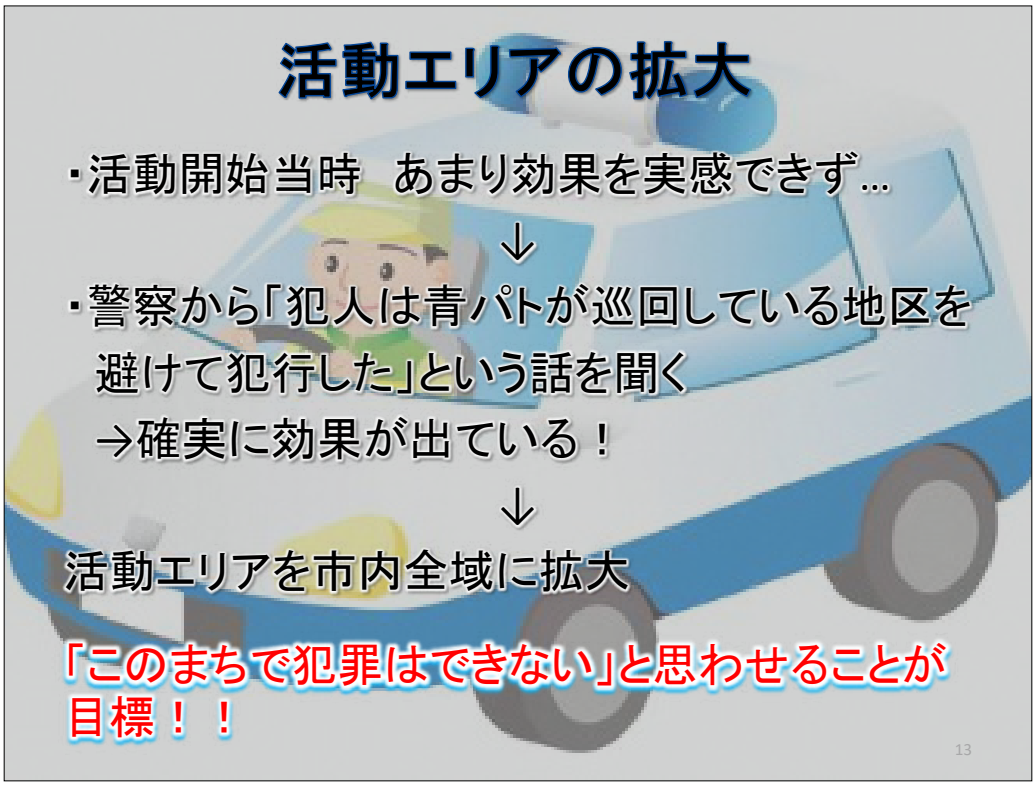
この定期パトロール時に、静岡県警が提供する「どこでもポリス」というアプリから市内の不審者情報などが出されていた場合は、その周辺に重点を置いて注意喚起および警戒をしていただいています。

また、定期的なパトロールの他にも、不定期で行われる活動もあります。TEAM-ON のメンバーは商工業者が多いため、仕事での移動に「パトロール中」と書かれたマグネット看板を貼り付けた車両を使うことで、「ながらパトロール」をしている方もいらっしゃいます。

また、我々伊豆の国市役所では、警察署から行方不明者情報の提供を受けると、同報無線のほかに、市の公式 LINE やメールで市民に情報提供をしています。この提供を受けた TEAM-ON のメンバーのうち、その時動ける方々で行方不明者の捜索を行う場合があります。

これらの防犯パトロールの目的は、地域住民の防犯に対する関心を高め、警察、市、各種団体および地域で協力し、犯罪や事故による被害を未然に防ぐことです。警察のように犯人を逮捕する権限を持っていないため、決して犯罪者を捕まえることが目的ではありません。

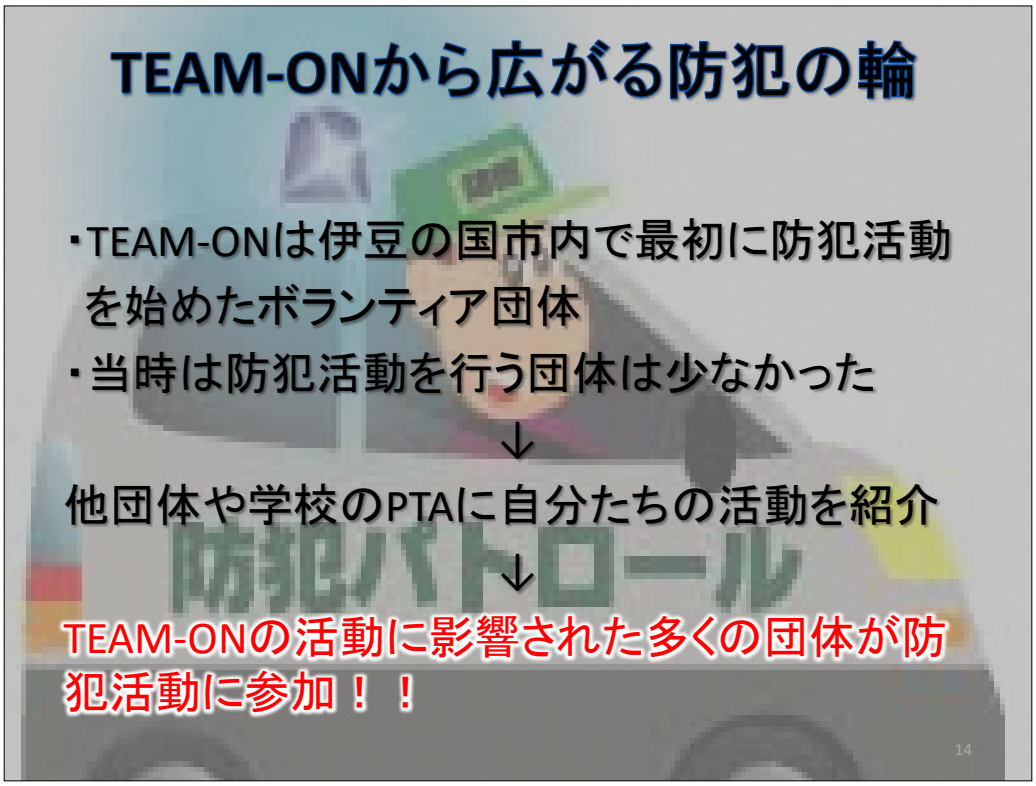
また、定期的な夜間防犯パトロールと合わせて、防犯啓発活動も行っていただいています。スライドにあるように、駅やショッピングセンター等、人が集まる場所へ行き、防犯パトロール隊の存在をアピールしています。市民の方々に防犯パトロール隊が常に巡回している市として認識していただき、防犯意識を高めてもらえるよう日々活動していただいています。



青パトによる巡回を開始した頃は、週に１回、地元地区を中心にパトロールを実施していましたが、防犯の効果をあまり実感できなかったそうです。効果が見えたのは、ある時、窃盗で逮捕

された犯人が警察の取り調べにおいて、「青パトが巡回している地域は防犯意識が高く、人の目もあるため犯行しにくいので、巡回していない地区を狙い犯行を行った」という話を聞いた時だったそうです。

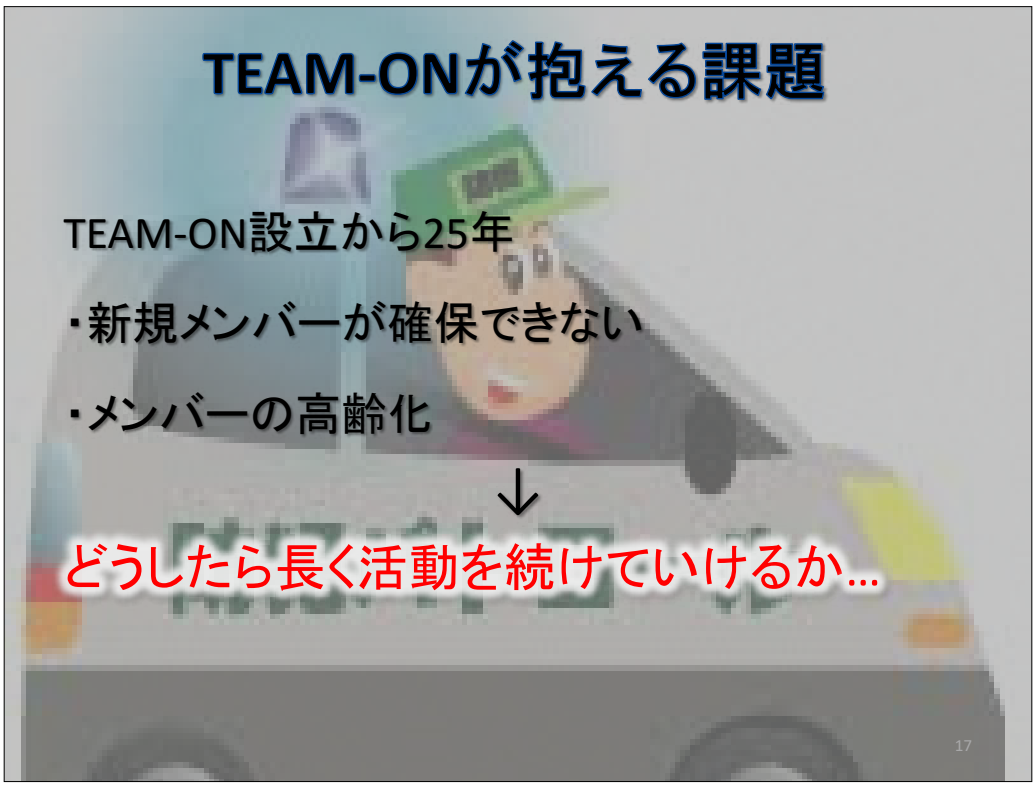
この出来事がきっかけとなり、青パトの巡回による効果を確信し、巡回の範囲を地元地区だけでなく市内全域に広げました。「犯罪を働こうとする者に、この街では犯罪ができない」と思わせることが目標だと、TEAM-ON 代表の中村さんはおっしゃっていました。



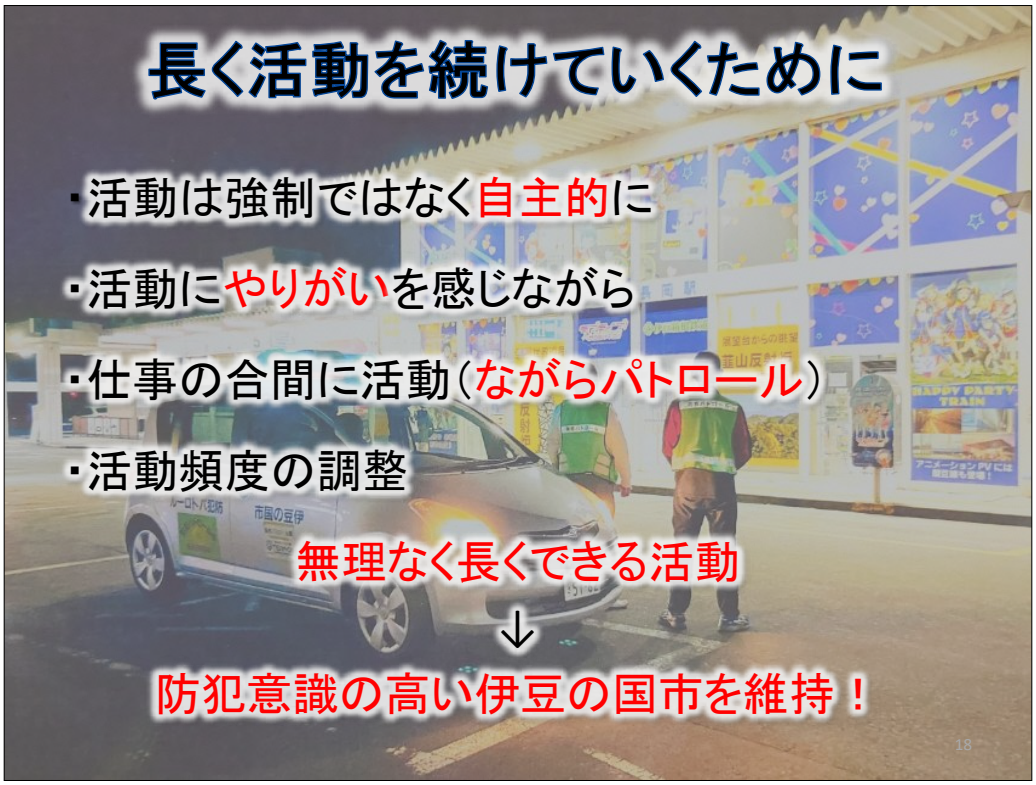
TEAM-ON は、伊豆の国市内で最も古くから防犯活動を始めたボランティア団体になります。青パトの巡回を始めたばかりの頃は、防犯活動を行う団体はそれほど多くはなかったため、他の団体や学校の PTA に TEAM-ON のメンバーが自分たちの活動を紹介し、防犯活動への関心を持ってもらえるよう努めたそうです。その結果、今では地域安全推進委員、民生委員、地区の役員など、様々な方が防犯活動に協力してくださっています。

このような積極的かつ継続的な活動が評価され、平成 20 年に大仁警察署より、翌平成 21 年に伊豆の国市より、さらに翌平成 22 年に静岡県防犯協会連合会より、それぞれ感謝状が贈呈されました。

そして令和 3 年には、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの自転車競技大会が伊豆の国市に隣接する伊豆市で開催されるにあたり、TEAM-ON を含む防犯ボランティア団体 10 団体が「伊豆オリパラ特別パトロール隊」に任命され、4 月から 9 月にかけてパトロールを強化しました。この活動が評価され、同年 10 月には静岡県警本部長より感謝状が贈呈されました。



現在、TEAM-ON が設立されてから 25 年目になりますが、新たに加入される方がほとんどおらず、年齢も 47 歳から 65 歳と若い方が少なく、メンバーの高齢化が進んでいることが大きな課題になっています。そのため、今いる人員でどうすれば長く活動を続けていけるかを常々考えているそうです。



TEAM-ON がここまで長く活動してこられた理由として、活動に強制的に参加させず、自主的に行ってきたことが大きな要因となっており、そうすることで負担なく活動を続けることができ

ています。また、活動を通して市内の犯罪件数が減ることや、防犯パトロール中に地域住民から「お疲れ様、いつもありがとう」などと声をかけてもらえることが、メンバーのやりがいとなっているそうです。このようなやりがいがあって、毎週金曜日、自然と TEAM-ON のメンバーが集まります。

TEAM-ON も今後さらに高齢化が進み、今と同じ頻度での活動が難しくなったとしても、仕事の合間の「ながらパトロール」など、無理なく長くできる活動を続けていくことで、防犯意識の高い伊豆の国市を維持していきたいとのことでした。

駆け足の説明になりましたが、伊豆の国市からの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

■講　評

【常葉大学 木宮 敬信 先生】

発表ありがとうございました。

防犯ボランティア団体としての TEAM-ON と、伊豆の国市役所としての取り組み、この両面からの活動のご報告をいただいたと思います。

私も静岡県から来ておりますので、土地の様子などはある程度理解しておりますが、市が合併によって広くなることもあり、パトロールも大変になります。また、伊豆の国市は観光客も多く、市外の方々が宿泊される温泉地もありますし、伊豆を東西に抜ける主要ルートでもあるため、非常に多くの車が走っている場所です。そうした地域特性を考えると、やはり「青パト」が非常に有効になるのだろうと思います。地域によって青パトの重要性は大きく変わりますが、そういう意味でも非常に効果的な取り組みだと感じます。

市としての取り組みに目を向けると、かなり精力的にパトロール隊を組織されており、先ほどのご報告では 455 名の方が登録しているとのことでした。市の人口が 4 万 6 千人ということですから、市民の 1% が青パトに登録している計算になります。これは、とんでもない比率だと言えるでしょう。

そして、それらの方々をどう調整するのか。これは市役所にとって、本来はかなり大変な業務になるはずです。4 台の青パトを 455 名の方々がローテーションで使い、予約を受け付け、車両を引き渡す。また、行政機関は夜間や土日は閉庁しているため、そうした調整は非常に難しいのが実情です。一方で、民間団体が青パトを維持管理するのは費用面で大変だという側面もあります。

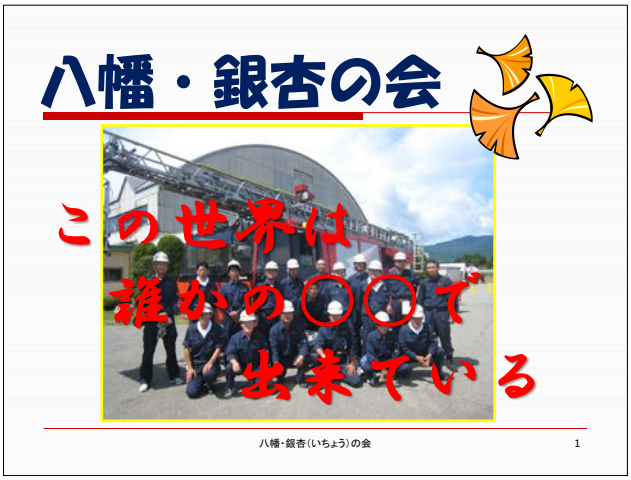
市が所有する青パトを有効に活用してもらうという発想自体は素晴らしいのですが、その分、市の負担はかなり大変なのではないかと推察しました。これは各自治体の行政担当者も悩んでいる点であり、そうした中でうまくいっているこの取り組みは、大いに参考になるでしょう。

また、本日ご紹介いただいた TEAM-ON は 13 名ということですから、市内には他にもたくさんの同様のボランティア団体があるのだろうと思います。これらを調整したり、情報を共有したりするのも非常に大変なことです。同じ青パトを多くの団体が共同で、日替わりで使っていくわけですから、そのあたりの運用も難しいと思いますが、それをうまく回している市の取り組みは素晴らしいと感じます。

TEAM-ON の取り組みについては、本日代表の方がいらっしゃらないとのことでしたが、「ながらパトロール」という発想、つまり自分たちのできることをできる範囲でやっていくという姿勢は、ボランティア活動において非常に重要な点です。あまり力を入れすぎず、自分たちのペースで活動していくという姿勢は、他の団体にも共通することだろうと思います。

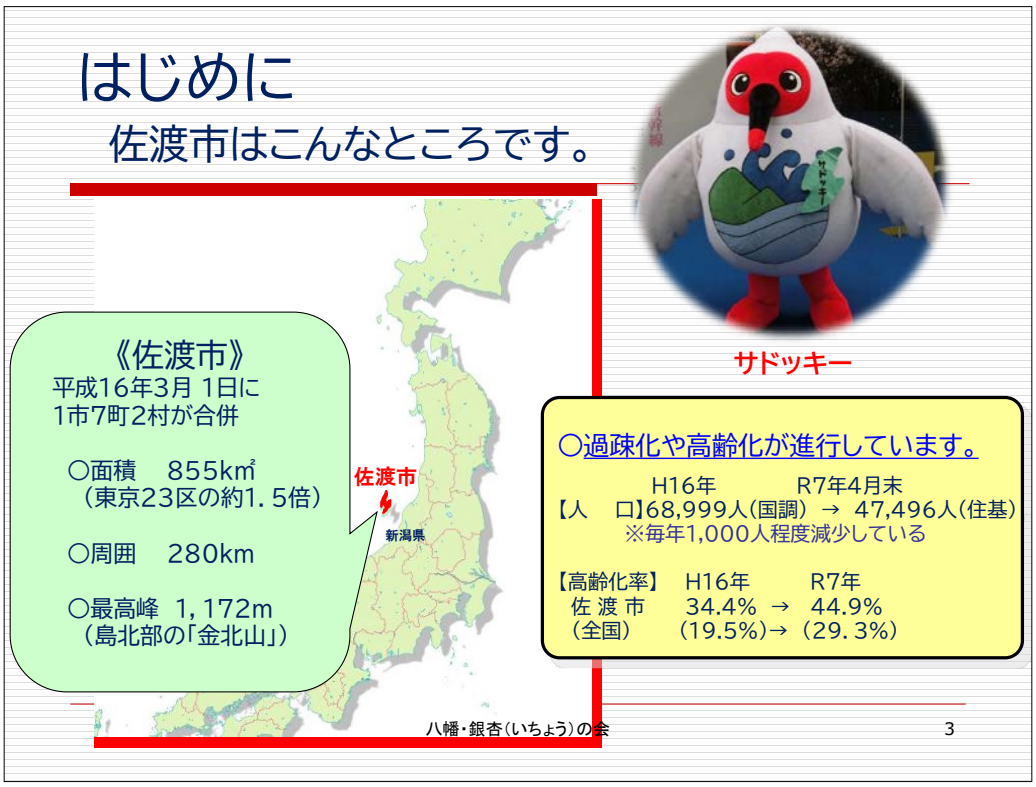
新規加入者の獲得が課題というお話でしたが、おそらく、もともとの仲間の方々が同じ目的で組織化されているため、新規の方はまた別の団体を作るということもあるのかもしれません。地域全体で活動者の数を確保するという、そうした姿勢も一つのあり方なのだろうと感じた次第です。以上です。

八幡・銀杏の会（新潟県）



皆様こんにちは。佐渡から参りました、八幡・銀杏の会でございます。どうぞよろしくお願いいたします。皆様お疲れの様子かと存じますが、最後ですのでよろしくお願いいたします。

まず、私どもの会の説明の前に、佐渡がどのような所かをご説明させていただきます。



人口は約５万人弱、４万８千人ぐらいで、周囲は約 280 キロ。東京都の約 1.5 倍の面積を持ち、日本では沖縄本島に次いで大きな島であると認識しております。

佐渡は豊富な観光資源に恵まれており、最近では「佐渡島の金山」が世界遺産に登録されました。また、農産物の中でも果物が豊富に獲れる島でございまして、リンゴは日本の栽培地の最南端、

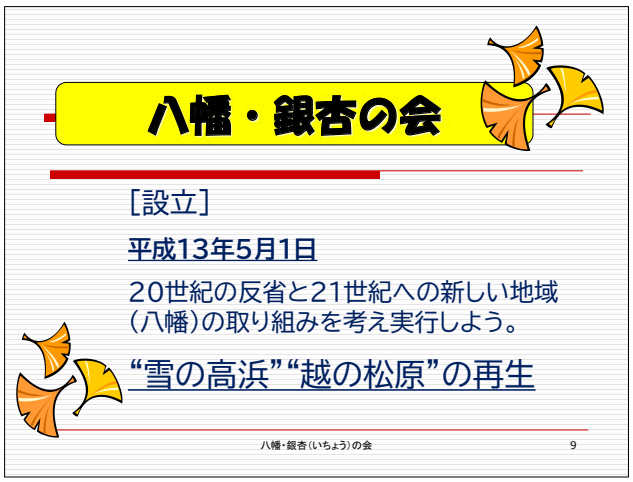
ミカンは最北端にあたり、また「佐渡レモン」のようにレモンもたくさん獲れます。農作物、そしてお米も美味しく、お米が美味しいのでお酒も美味しい、というところでしょうか。

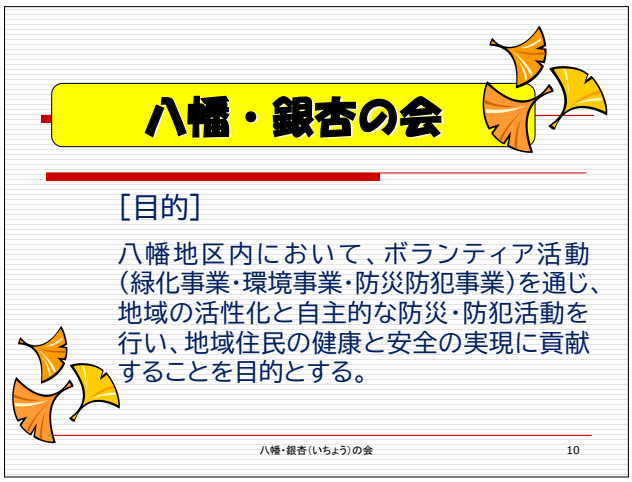
そして古典芸能では、この「鬼太鼓」は朝鮮出兵を経て、この佐渡島だけに残された古典芸能でございます。また、国の特別天然記念物である「トキ」の、日本における最後の野生の生息地でもありました。

金山については、これは「道遊の割戸」といいまして、ずっと掘り進められた坑道の総延長は約 380 キロあると聞いてございます。これは、新潟から東京までの距離に相当します。

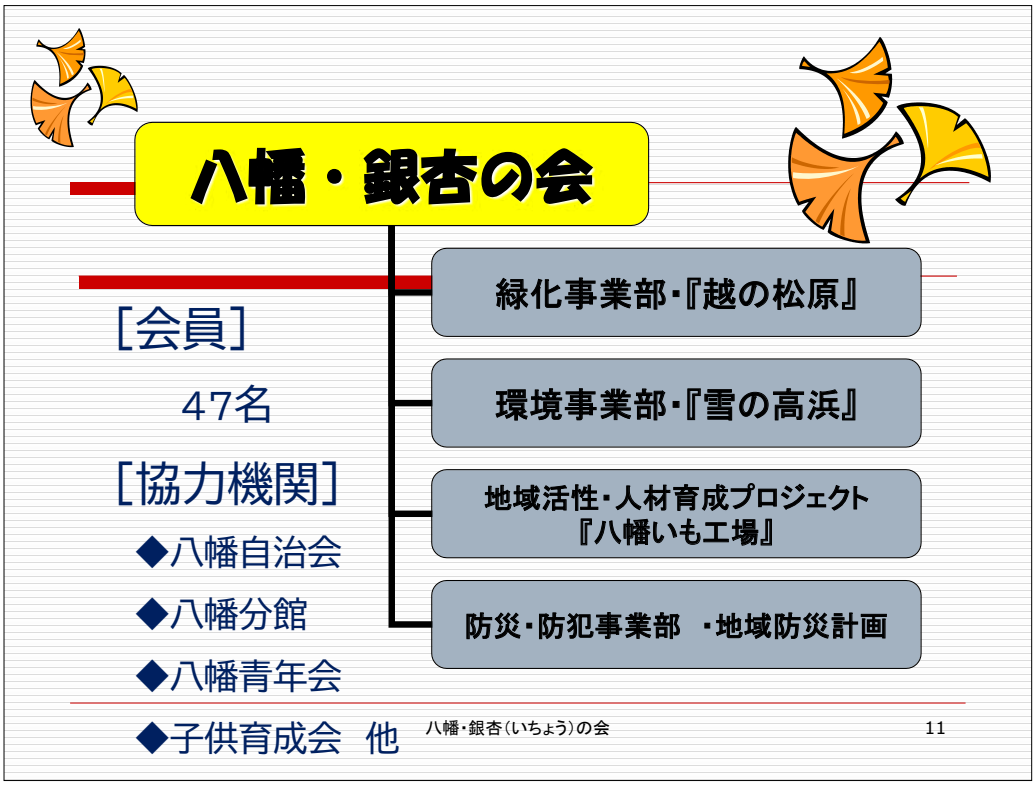
また、日本にある能舞台の約 3 分の 1 が佐渡にあり、毎年、芸能人の方もたくさん来られて、能舞台を鑑賞されていきます。ロバート・デ・ニーロさんですとか、吉永小百合さんといった方々がお越しになり、堪能されていっております。

私どもの活動拠点である八幡地区は、約 800 世帯ほどの人口がいるところでございます。この湾の扇形の赤いところが八幡地区で、ここには「越の松原」という松林があり、防風林として役立ってまいりました。この防風林は、稲作とチューリップ栽培、そして葉タバコ栽培を風から守るためのものでした。以前はこのように松が生い茂っておりましたが、マツクイムシにやられて見事に枯れてしまいました。これを再生させないと、風が強くて農作物が育たないということで、再生に取り組んだのが活動の始まりでございます。



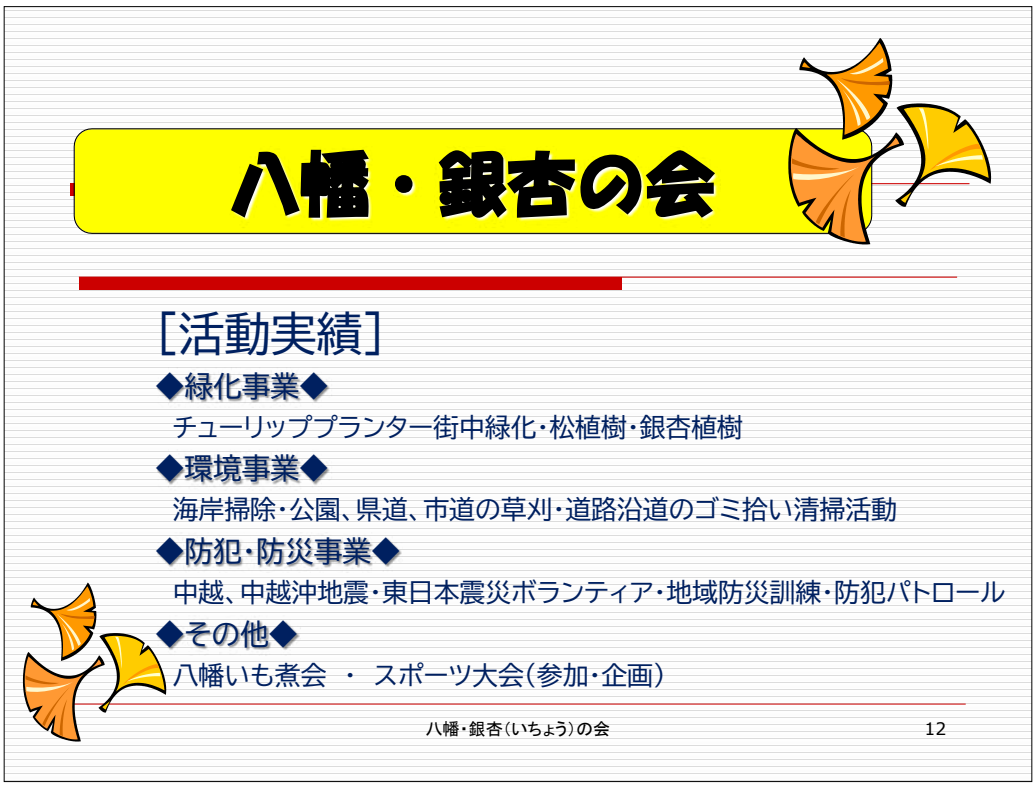


これが、八幡銀杏の会の取り組みの原点、「雪の高浜」「越の松原」の再生でございます。ボランティア活動を通じて、緑化活動、そして防災、防犯へと活動が広がっていきました。私どもの会は、まず緑化事業から入り、防災へ、そして防犯へと至った団体でございます。



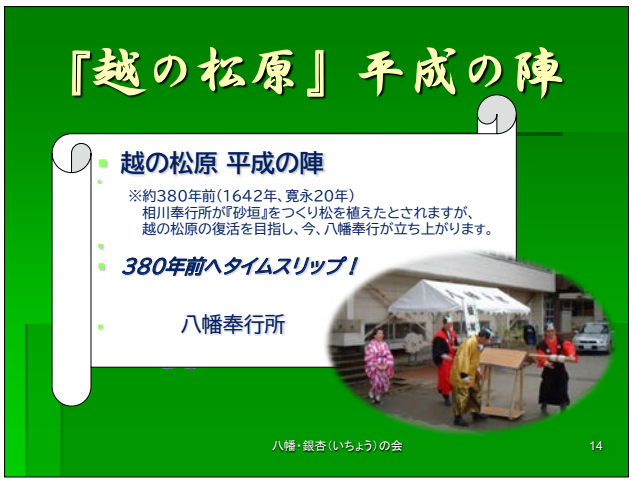
八幡銀杏の会の四つの柱は、「緑化事業部」越の松原の松の植樹、「環境事業部」雪の高浜の清掃、そして「地域活性化・人材育成プロジェクト」です。

このプロジェクトでは、特産物である八幡芋を、我々会員が五反ほどの畑で栽培し、ホテルなどに買っていただくことで、年間 150 万円ほどの原資を作り、ボランティア活動費に充てています。



活動実績としては、まずチューリッププランターです。町中に約 200 鉢のチューリッププランターを配置し、約 2 万球の球根を植えて飾っております。これは地元の小学校や地域企業と一緒になって植えています。このプランターに土を入れる作業は、災害時の土嚢に砂を詰める訓練にもなっており、活動の最後には芋煮会を行っています。

これが活動の様子です。



昔、江戸時代にはお殿様がいらっしゃいましたから、校長先生にお殿様役をやってもらい、腰元役は教頭先生です。

松は風に当たると負けてしまうためスーパー松という品種の松を、一本一本丁寧に植樹していきます。

これがチューリッププランター大作戦の成果です。

国道から市道、県道沿いを、こうしてチューリップで囲っております。沿道の清掃も行いながら維持しています。

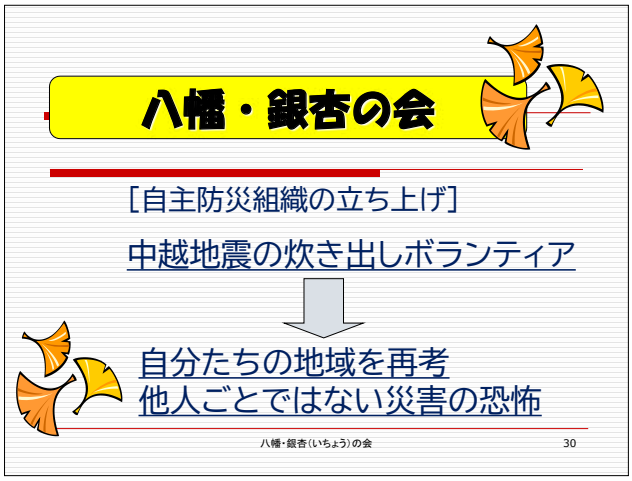
こちらは「越の松原」「雪の高浜」の海岸です。以前は約４キロの砂浜があり、岸から２キロぐらいの浜がありましたが、現在は侵食でこのようになってしまいました。

これを取り戻そうと、年に１回、海の清掃を行っております。漂着するゴミのほとんどはハングル文字が書かれたものです。

これが「八幡芋」の栽培風景です。そしてこれは、年に１回、防災訓練を兼ねて行う芋煮会で、地域の方々と一緒に芋煮を楽しみ、振る舞っております。これは炊き出し訓練の一つでもあり、私どもの会は約 2000 人分の炊き出しを一気にできる釜を持っていますので、日々の訓練の成果を見せる場でもあります。

また、何でも手を出しますが、自分たちで野球チームも作っており、地域に 12、3 チームある野球チームと大会なども開催しております。

そしてこれは、子どもたちのための少年野球大会を実施している様子です。約 13 校ほどのチームが参加し、「ライオンズクラブ・ロータリークラブ・八幡銀杏の会」杯として大会を行っております。



これは 4 年に 1 回の大きな防災訓練で、大地震が来た時にどうするのかという訓練の様子です。私どもには規定がありまして、地震が発生すると 3 日以内に関東甲信越へ出動することになっています。その規定に従い、中越地震の際には直ちに炊き出しのボランティアに出動し、約 10 名でボランティア活動を行いました。

中越沖地震ボランティア（柏崎市）

中越沖地震ボランティア（柏崎市）

その後の中越地震が引き続きあり、その際にも出動しております。

東日本大震災ボランティア（仙台市）

東日本大震災ボランティア（仙台市）

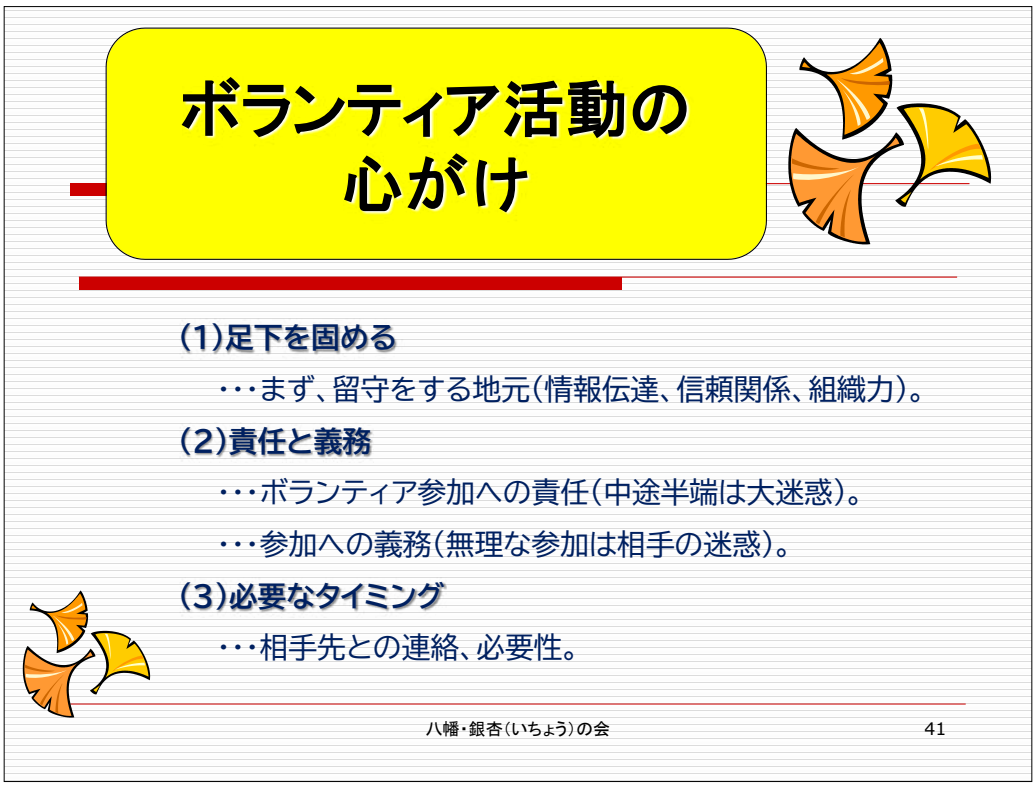
そして最後に、東日本大震災にも３日以内に出動させていただきました。

東日本大震災ボランティア（仙台市）

北関東豪雨ボランティア（南会津）

他府県にわたって出動する際、県庁に連絡すると最初は「来ないでくれ」と言われることもありますが、私どもの活動内容を調べられると、すぐに「来てほしい」ということになり、出動しております。

これは輪島の能登半島地震の際の様子ですが、うちの現会長の会社がドローンの会社をやっておりまして、能登地震の災害復旧支援として出動したところでございます。



ボランティア活動の心がけは、「足元を固めること」「責任と義務」「必要なタイミング」です。

防　災　協　定

◆特別養護老人ホーム　やはたの里

◆特別養護老人ホーム

　　真野の里二号館

◆東京都大田区大岡山自治会

八幡・銀杏（いちょう）の会　42

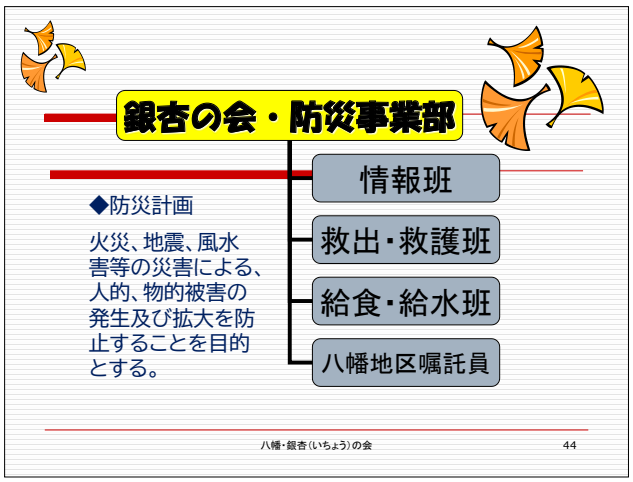
そして、佐渡市と防災協定を結ばせていただき、これは養護老人ホームとの協定ですが、例えば津波が来た、不審者が入ったといった有事の際に、すぐに駆けつけて協力体制をとるというものです。24 時間メールが届くようになっており、メールでの通報訓練を月に 1 回、実動訓練を年に 2 回行っております。

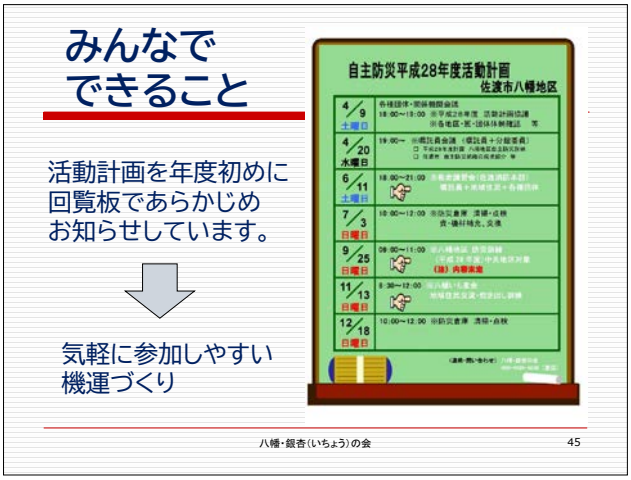
いも煮会と防災協力

姉妹自治会

八幡・銀杏（いちょう）の会　43

また、東京工業大学で年に 1 回開催される桜祭りがあり、そこで炊き出し訓練を行っています。約 2 万人の方が来場され、八幡芋やお米を持っていき、炊き出し訓練を行うのですが、これがなかなか好評です。警視庁や地元の消防署も応援してくれております。





災害時の行動計画としては、情報班、救出・救護班、給食・給水班、嘱託員というふうに担当が分かれております。

これは私どもの防災センターにある防災倉庫です。佐渡市にお願いして、八幡地区だけの大きな防災センターを作っていただきました。

八幡地区　自主防災訓練の様子

情報収集訓練

通報訓練

これは自主防災訓練の様子です。佐渡は観光地ですので、外国人観光客や旅行中の方が被災された時にどうするのか、という訓練です。実際に名前を確認し、安否を取る訓練です。

八幡地区　自主防災訓練の様子

消火訓練

救出訓練

八幡地区　自主防災訓練の様子

簡易担架による搬出訓練

バケツリレー初期消火訓練

これは、崖が崩れた時の救助方法、新しい担架の作り方、バケツリレーといった訓練を常に行っております。

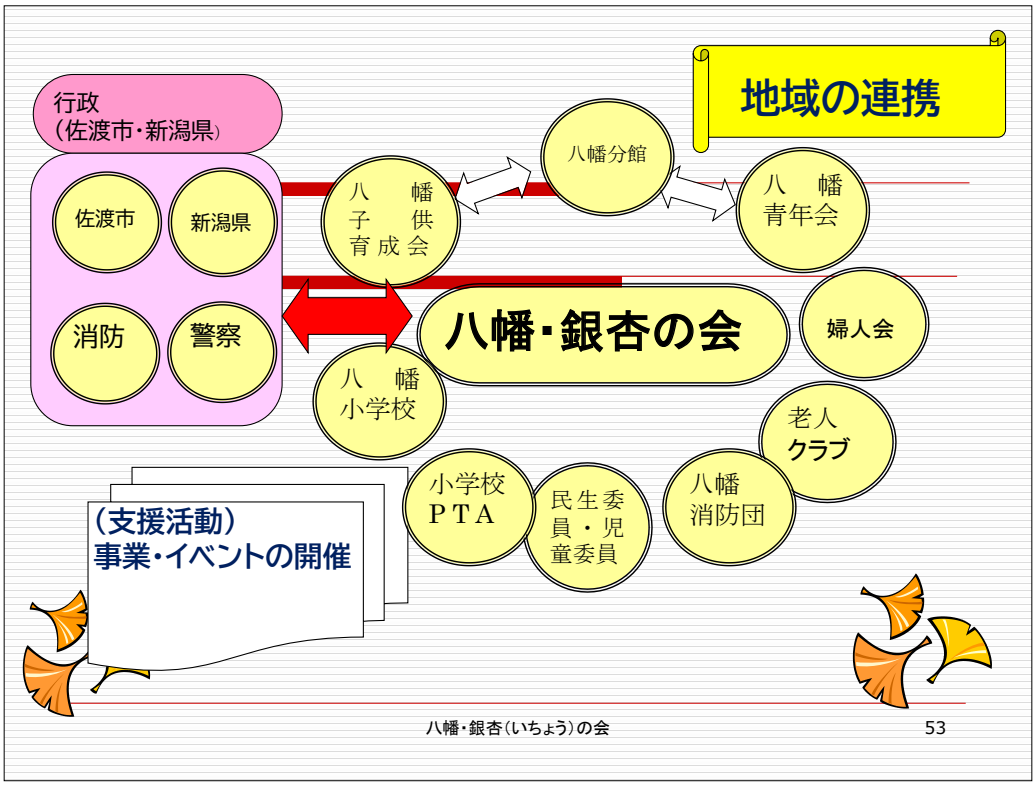
八幡地区　自主防災訓練の様子

炊き出し訓練

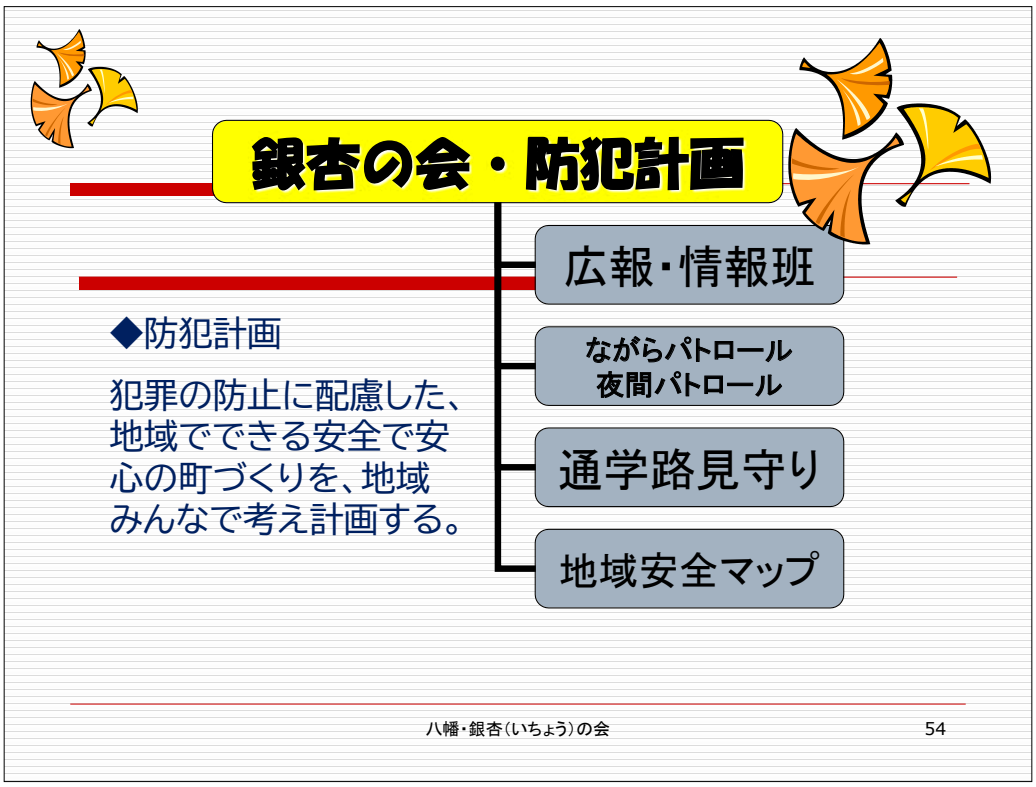
防災器具展示

また、これは県警のヘリコプターが出動してくださり、人の救助や物資の搬送といった訓練を行ってくださったシーンです。

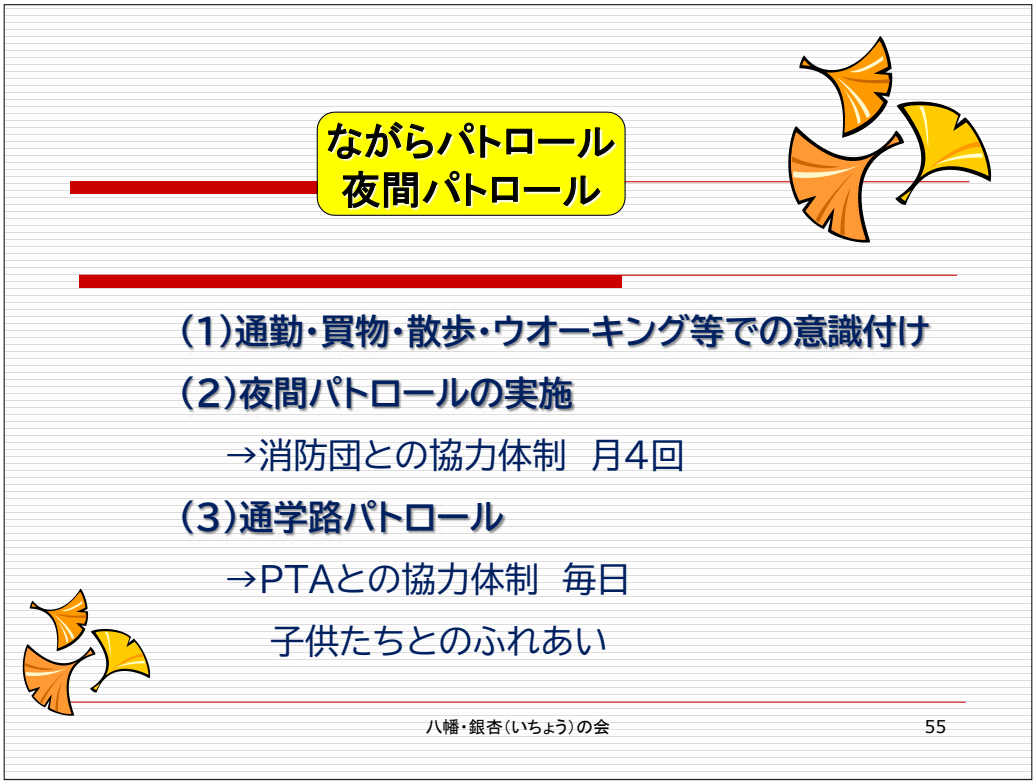
青パトも含めまして、毎日、通学時間帯に横断歩道での交通指導を行っているところでございます。



地域連携としては、様々な会がある中に八幡銀杏の会が入ることによって、一つの和ができ、色々なことができているという状況です。

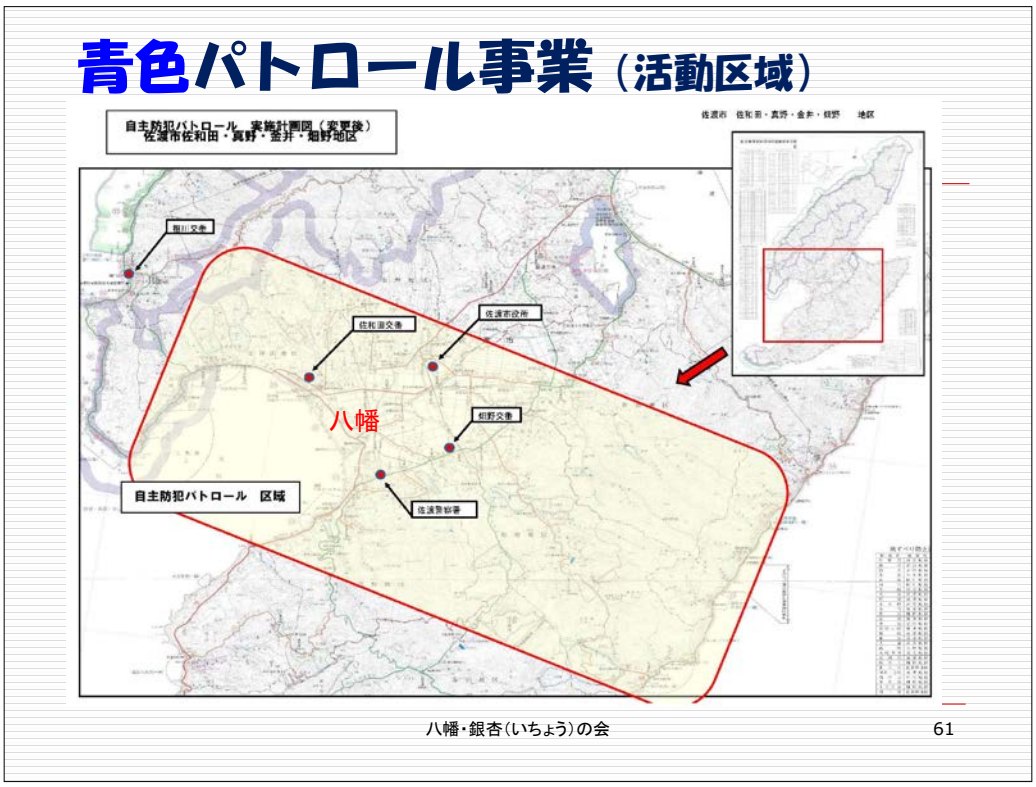


防犯活動としては、広報活動、「ながらパトロール」、夜間パトロールを行っています。この「ながらパトロール」は、会員が勤めから帰る時に、子どもたちが遊んでいそうな場所や、高校生・中学生が通る暗い道などをパトロールしながら自宅へ帰るというものです。



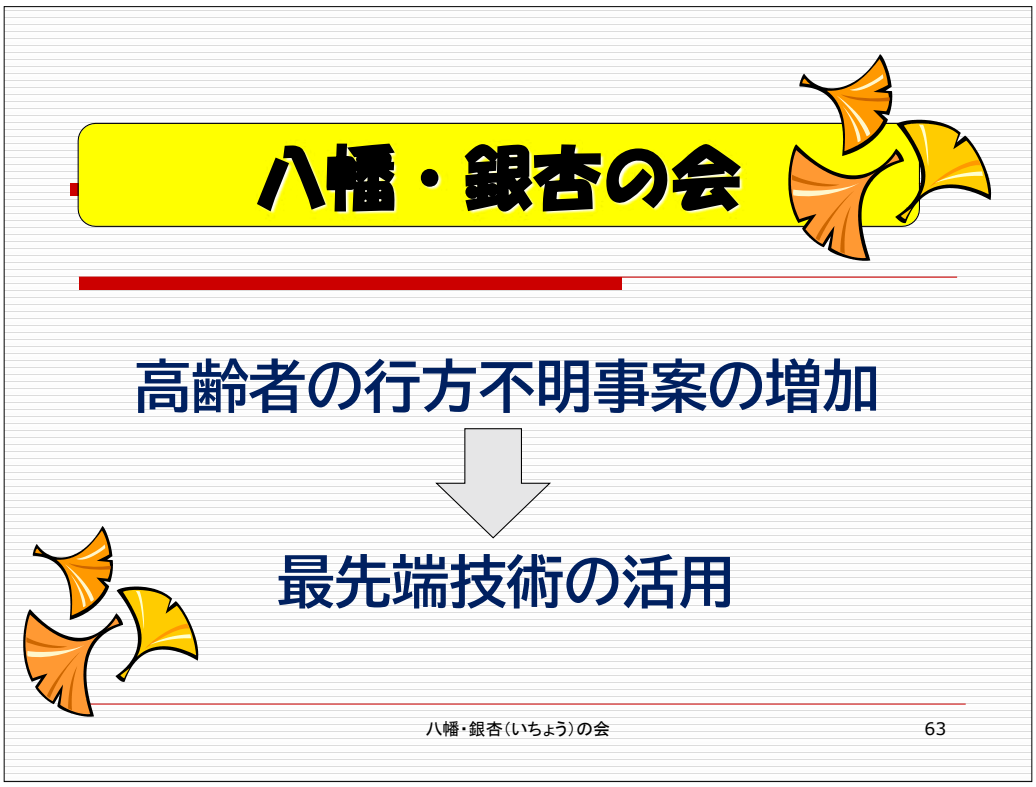
このようなシールを各個人の車に貼りまして、安全・安心パトロールを行っております。
この青いジャンパーを着た人が何回か出てきますが、これがうちの会長です。

青パトは、令和３年 12 月に申請させていただき、自分たちでお金を出して購入し、今、維持しているところです。結構維持するのにお金がかかりますが、小学校の皆さんと一緒に毎日見守り活動をしています。



これが私どもが網羅するエリアです。佐渡市は 10 市町村が合併して一つになりましたが、そのうち 4 地区ほどを私どもで防犯活動させていただいております。

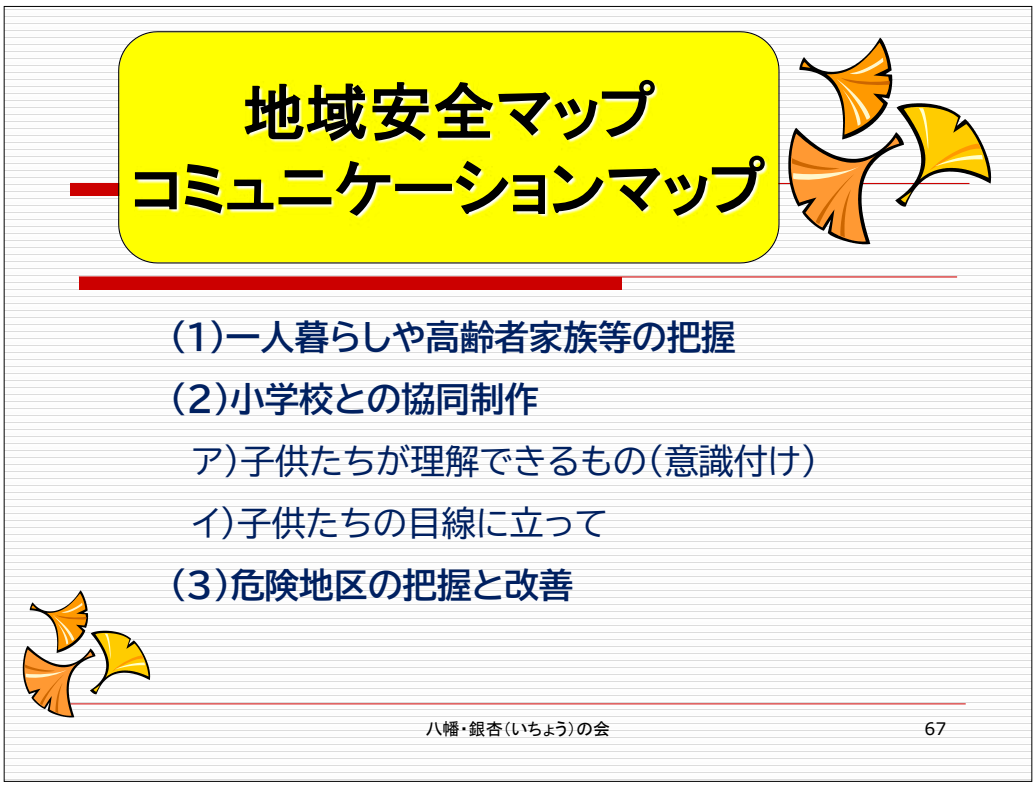
これは危険箇所のマップです。このマップには、危険な場所と同時に、一人暮らしの方がどこにいるのかという情報も全て落とし込んであります。これは佐渡市に聞いても分からないため、うちの会員 47 名が、それぞれ分担している担当区域の家の一軒一軒の情報を集めて、地図に落とし込んでいます。



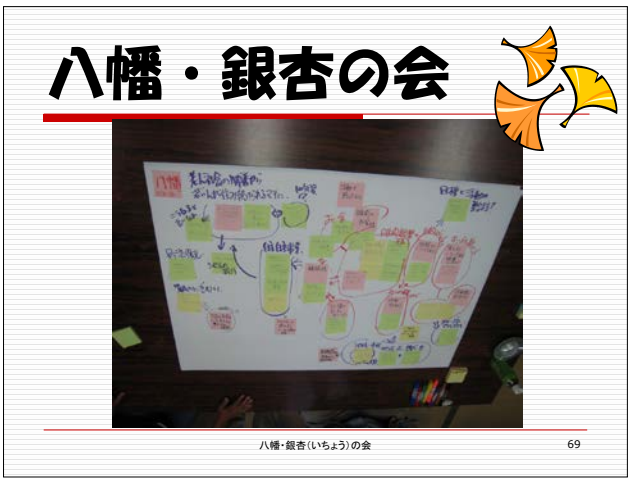
高齢者の行方不明については、認知症やアルツハイマー病などにより、残念ながら家から一人で出かけてしまい、帰ってこないというケースがあります。

そうした際に、先端技術であるドローンを使って捜索を行っています。これは体の体温が残っている間は必ず見つかり、事例も２件ございます。残念ながら１件は亡くなられていましたが、１件は無事に発見できました。このカメラは上も下も全部映るというハイテクを使いながら、地域の貢献にあたっているわけです。

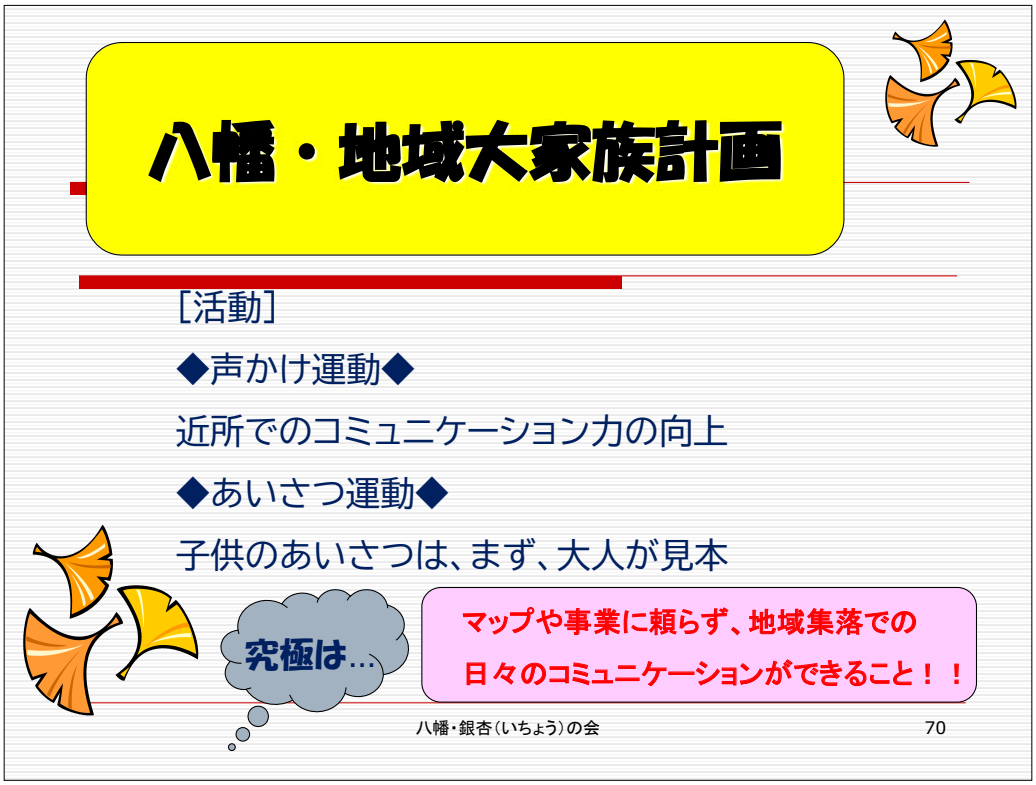
また余計なことですが、私の周りには 13 社ぐらいの株式会社があり、その会社の人たちと年に 1 回カラオケ大会を開き、交流を重ねながら情報交換をしているというところです。



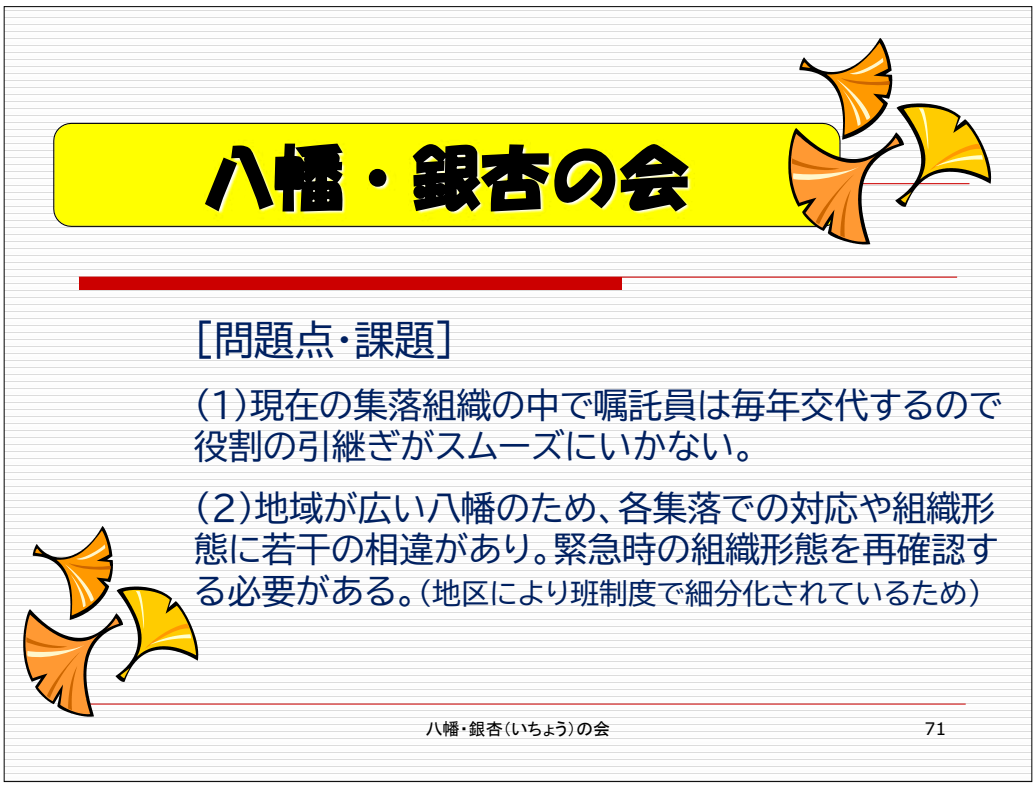
一人暮らしや高齢者の家族の把握で一番大事なのは、やはり地域全体のコミュニケーションマップをしっかりと作り上げることだと思っております。「一人暮らしではないんだよ」ということを印象づけることが大事です。



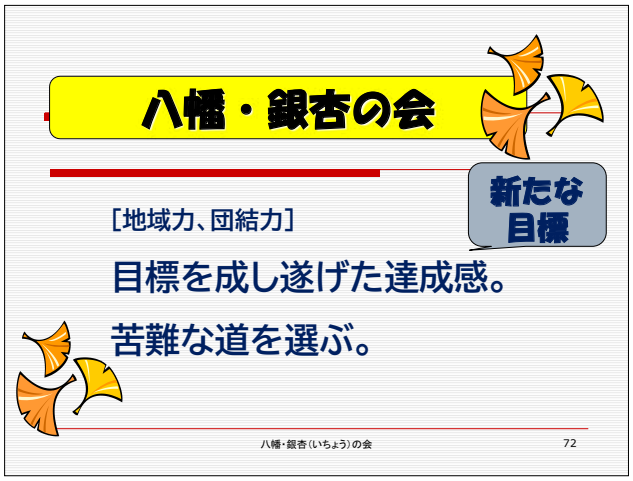
これが地図に落とし込んでいるシーンです。

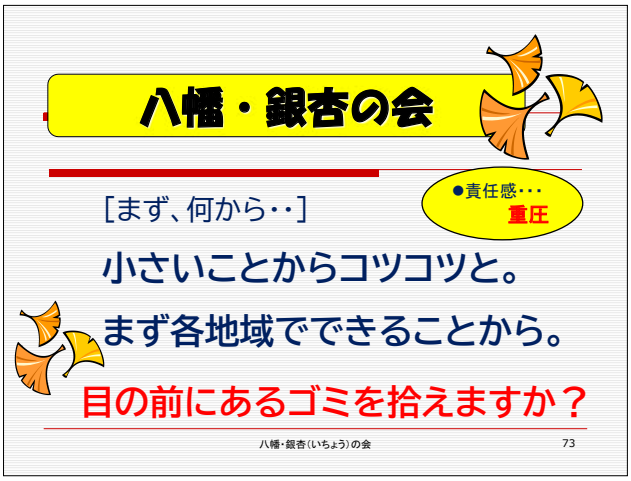


近所のコミュニケーションの向上により、佐渡の私どもの住んでいるところでは、大体の方の顔が分かっておりますので、「あのおじいちゃん、おばあちゃん、いないけどどうしたかな」といったことにすぐ気づけるようになっています。また、会員は全員 LINE でつながっておりますので、誰かがいなくなったという情報が入ると、一斉に 47 名の会員に連絡が届き、すぐに捜索に向かえる体制ができています。



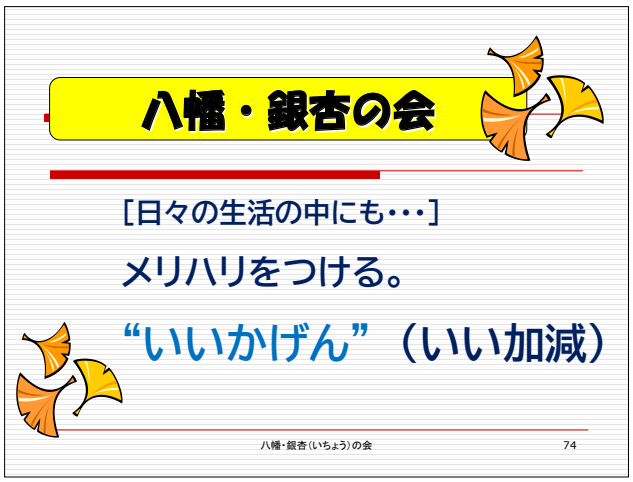
問題点もいろいろありますが、例えば「嘱託員」は毎年交代するため引継ぎがうまくいくのか、あるいは各集落での対応や組織形態が若干違うため、それをどうまとめるのか、といった課題があります。ただ、そのために我々がいる、ということでございます。

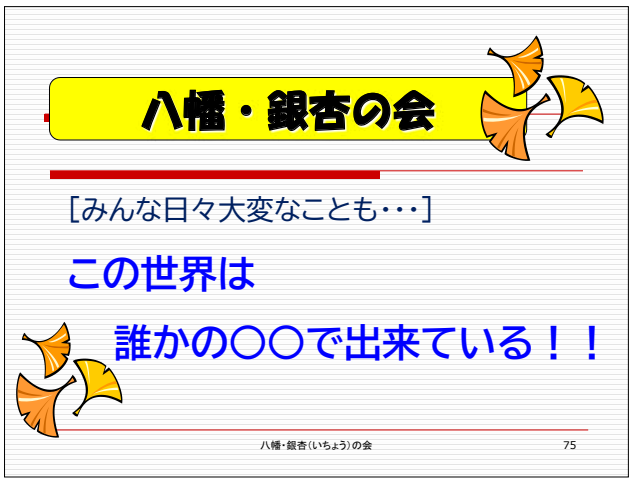




「目標を成し遂げた達成感」と「苦難の道を選ぶ」ということが我々のモットーです。

新たな目標としては、当初から言っているように「小さいことからコツコツと」。まず各地域でできることからやる。「目の前のゴミを拾う」ということでございます。





「いい加減」が「良い加減」という感じですね。

この世界は誰かと何々でできている。どのような仕事をしていても、どんな生活をしていても、人は絶対につながっているんだということを地域の方々に意識づけてもらい、「困ったことや悩んでいることがあったら、とにかく近くの銀杏の会に相談してくれ。できることはやります」という気持ちで活動しております。

ご清聴ありがとうございました。以上でございます。

■講　評

【常葉大学 木宮 敬信 先生】

発表ありがとうございました。

離島という、少し特殊なケースではありますが、人口が減少していく中でどのように地域の力を保つのか、という課題に対する素晴らしい実践報告でした。先ほどの発表でも「地域力」という言葉がありましたが、まさしくこの発表も、地域の力をどう上げるのかについて様々な工夫と取り組みをなされており、大変素晴らしいと感じました。

防災活動が活動の大きな柱になっているとのことですが、防災と防犯を絡めるというのは一つの良いアイデアだと思います。防犯は「犯罪が起こらないためにどうするか」という話ですが、防災は「起こってしまうもの、自然災害を止めることはできないので、起こった時にどうするか」という話であり、防災と防犯の違うところであります。しかし、一般の方々の危機感や意識の高さという点では、必ず起こりうる防災の方が高い傾向にあります。

そうした意識を高めやすい防災を入り口にして地域力を上げ、結果的に防犯力も向上させるという手法は有効です。また、資金面でも、防災関連の方がお金が集まりやすく、様々な補助金も活用できるため、そうしたものを防犯活動に応用するというアイデアも参考になるでしょう。

活動の心がけとして「責任と義務」という言葉があり、それだけを見ると非常にハードルを高く設定しているように感じられます。しかし、最後の方ではハードルを下げて「それぞれのできる範囲でいい」という発表もありました。このあたりも、防災と防犯の性質の違いかもしれません。防災ではやはり「しっかりやってもらわないと困る」という意識が働き、意識の高い方が集まりやすいという側面もあるのだろうと思います。

佐渡は観光地でもあり、地域の中で期待される役割も非常に大きいでしょう。それは防犯に限らず、多岐にわたると思います。最初に申し上げたように、その「地域の力」というものが、地域全体の安全に大きく寄与しているということを、多くの方に示している素晴らしい存在だと感じました。ぜひこれからも広く活動していただけたらと思います。ありがとうございました。